現地編輯

THE NORTH CHINA

7

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年六月十五日印刷納本　昭和十五年七月一日發行（毎月一回一日發行）第十四號

兵隊と子供

Japanese Soldiers & the Chinese Children

北支蒙疆の農業

灌漑

石炭と鐵とがなければ工業社會が成立し得ないと同樣に、人工灌漑なしに支那の農業經營は考へられない

北支の如く雨量の少い土地では、降雨だけに頼つては作物に必要な濕度を十分に望み得ないし、また屢々生ずる洪水に對する防禦工事としても人工灌漑は重要な意義を持つてゐるのである

然し支那のやうに人工灌漑の行はるべき面積が餘りにも廣大で、これに要する勞働力の巨大なところでは個々の村落、小さな地方において勝手に行ふことが出來ず、たゞ中央集權的政府權力の上からの干渉によつてのみ行はれたのである。支那の歴代王朝はこの人工灌漑といふ支那における農業生産の基礎であり、不可缺的な條件を管理することによつて支那の農民の上に君臨することが出來たとも云へる

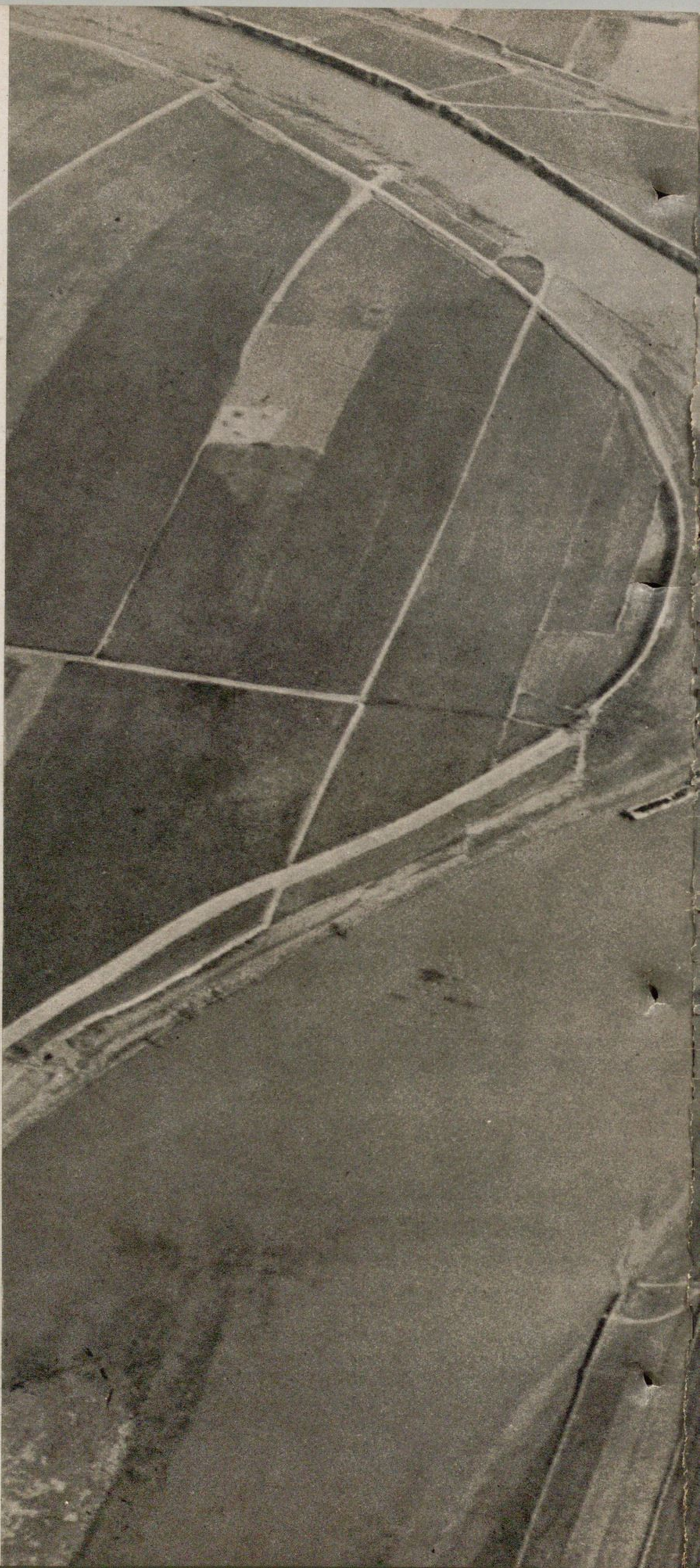
Irrigation in North China & Mengchiang Through Natural Methods

新鄕附近を潤す衞河

ロバによつて汲み上げる井戸水・北京

北支蒙疆の農業

灌漑

（人工灌漑）

春秋以前の時代には有名な禹の治水の傳說があり、秦の始皇帝は涇水から洛水に向け、中山の西から瓠口に達する三百餘里の水道を穿つた。「史記」には、「渠なり、用て塡閼の水を注ぎ、澤鹵の地に漑ぐこと、四萬餘頃、皆畝ごとに一鍾（六石四斗）を收む。是に於て、關中沃野となり、凶年なく秦以て富彊に、卒に諸侯を并す」と云はれてゐる。漢の文帝は「大いに卒を興して」黄河の治水を遂行した。特に武帝は大規模な治水灌漑事業——渭渠、龍首渠、白渠などの開鑿——を行ひ萬餘頃の田を灌漑した。隋の時代にも廣通渠、通濟渠など百萬人の民衆を徵發して開掘し、又男子が十分に供給されなかつたので婦人を役に從はせたと云ふ永濟渠の大工事などが行はれた。唐、宋、元、明、淸などの歷代王朝もことごとく、この人工灌漑に莫大な金錢と人力を費やしたのである

昨夏、華北平野を襲つた洪水の如く、自然の暴威の前には人力の如何に微々たるものであるかを痛感せしめられた水を治むる者、國を治むるといふ支那四千年の「悲哀」は我等の前に展開してゐるのである。人工灌漑の解決こそ新支那建設の前提條件であることを牢記せねばならない

Irrigation Through Man-Made Devices

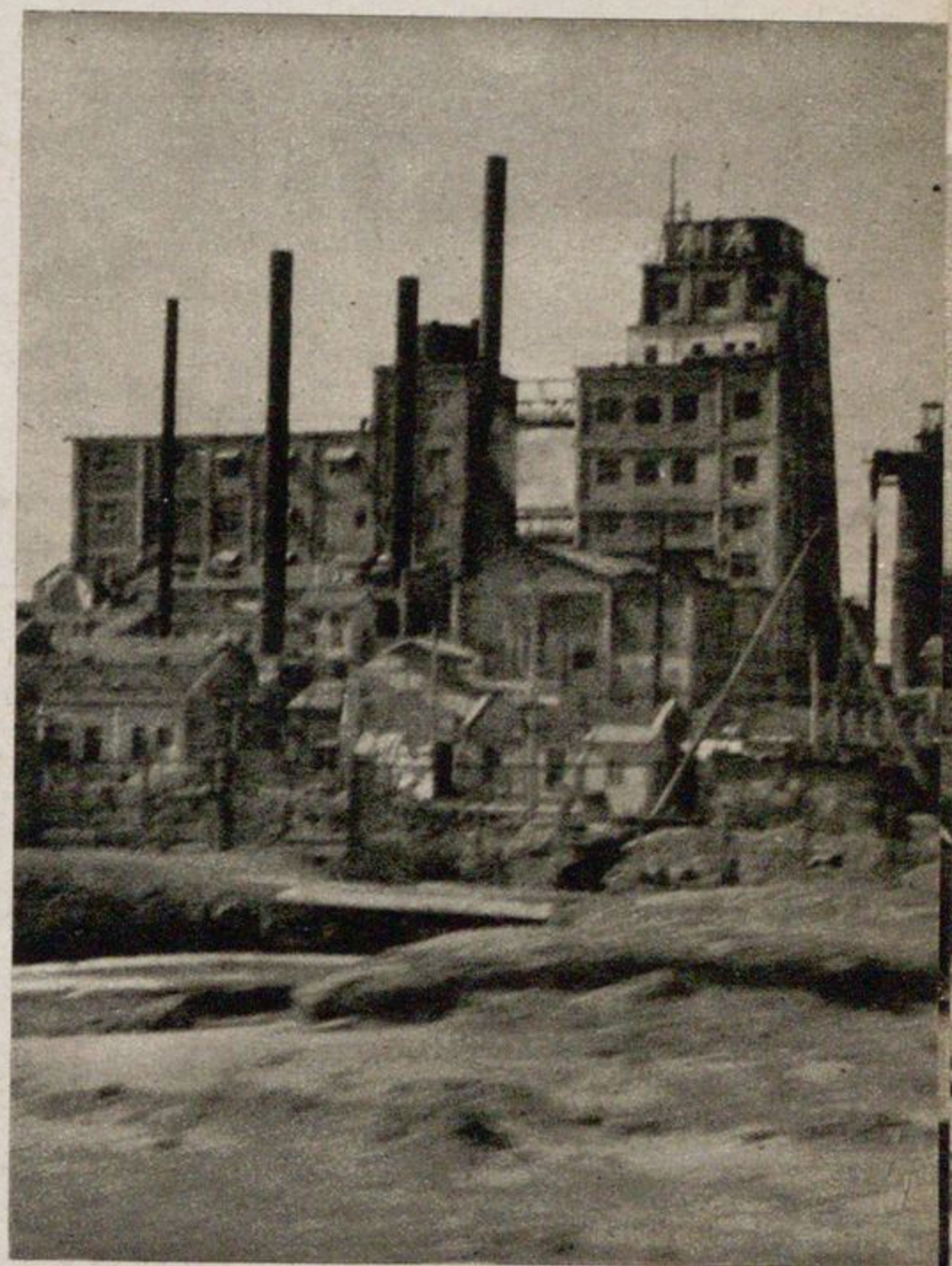
↑農夫の勞働で汲み上げる灌漑用井戸・同蒲沿線

廣い耕地を潤す役畜用灌漑井戸・厚和↓

京包沿線の天然曹達地帶・香積板附近

北支の曹達工業・原料

Different Aspects of the Soda Industry

永利化學工場・塘沽

北支に於ける曹達工業は民國四年北京政府の財政部が、豐富な鹽産をもつ長蘆鹽田（京山線塘沽附近）をバックとして設立された久大精鹽公司の餘剩鹽田の利用策として提唱したのにはじまる

民國七年支那唯一の曹達工業として、永利化學工業公司が同一の資本系統により設立された。永利製品は上海の市場に於いて、支那市場を席捲してゐた英國のブラナモンド社品と、競爭的な立場に立ち乍ら支那第一の化學工業會社に躍進したのは、政府の絶大な援助と、曹達工業に必要缺くべからざる原燃料の鹽を地元の塘沽に、石灰石は京山線の唐山附近に、石炭は開灤炭礦等容易に獲得し得る地理的條件に惠まれてゐたからである

その他近年工程の簡易な染料、硝子、石鹼等の群小工業の簇生により、硫化曹達等の化學工業藥品の需要が增大したため小規模な工場が出來てゐる

天然曹達も蒙疆地區の鹹湖より産出し全盛時代には南支をも市場とした歴史

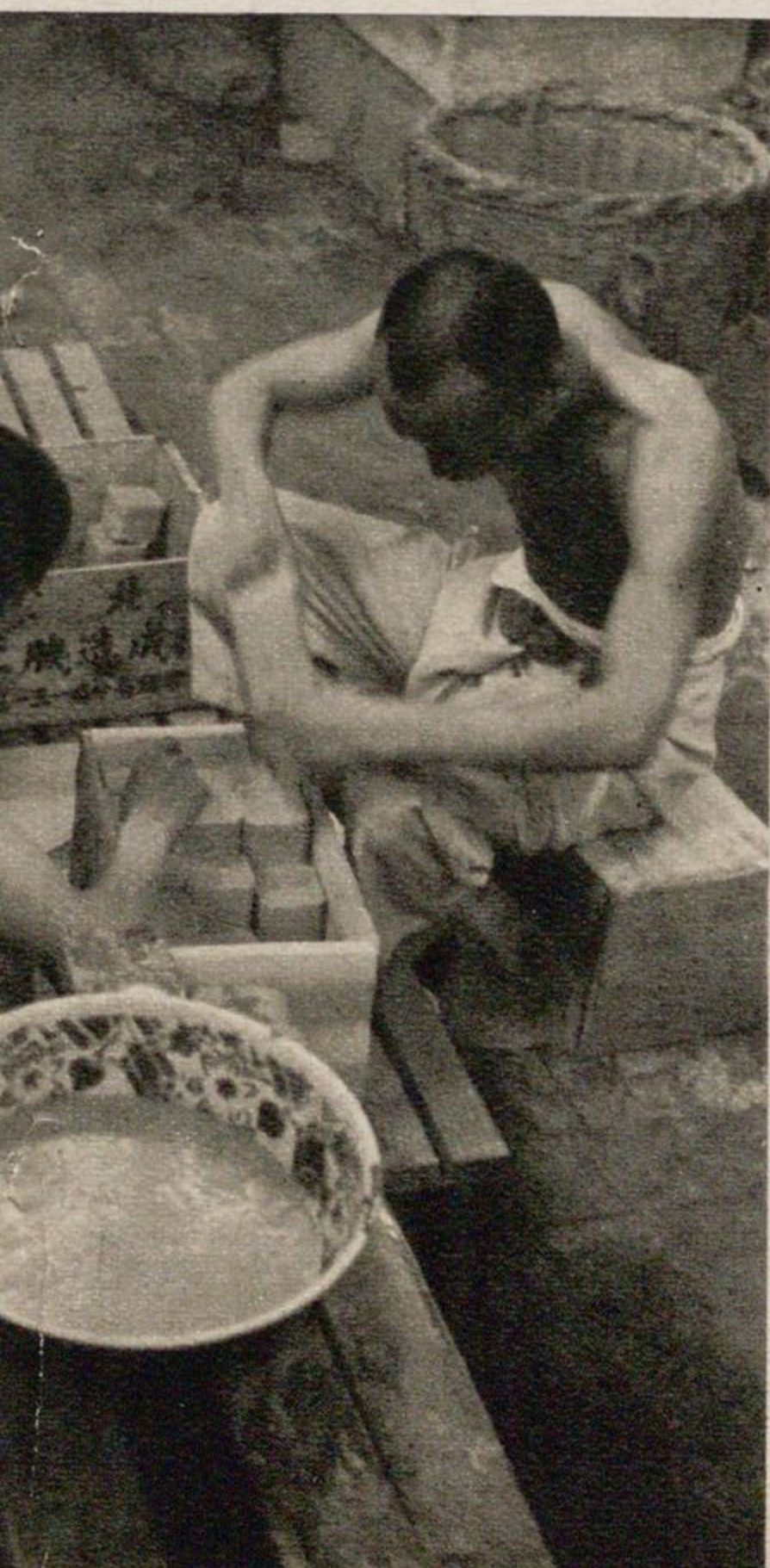
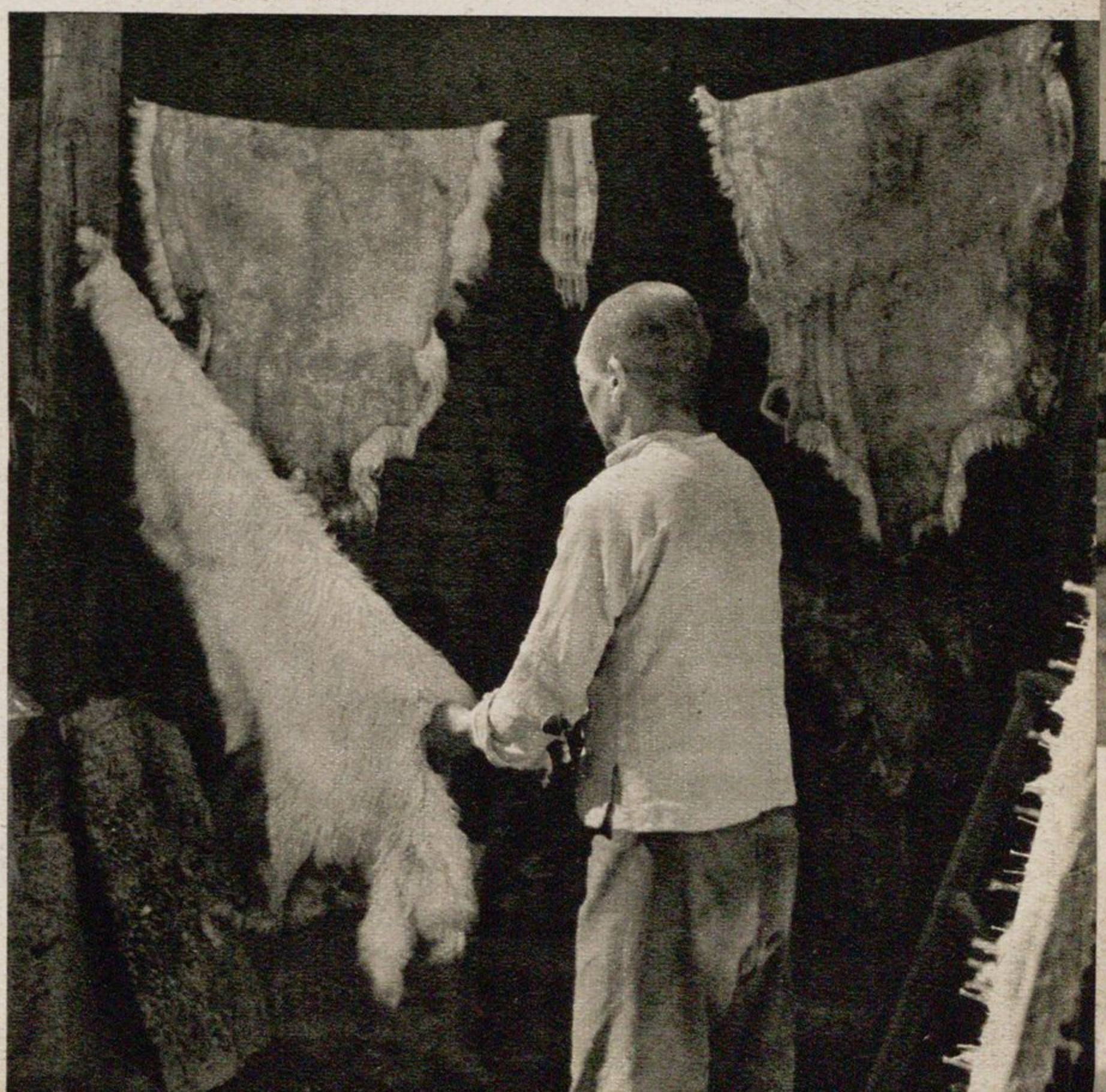
塘沽附近の長蘆鹽の野積

を持つが、人工曹達の出現以來北支の極小範圍を市場とする現狀である
現在日本の曹達工業は、四面海に圍まれてはゐるが、工業鹽は大多數を滿洲北支、臺灣や遠くトルコ、アフリカから輸入してゐたが、歐洲の動亂により圓ブロック外からの輸入は困難となり自給自足が要求され、これに應へるべく地理的に惠まれた北支の長蘆鹽、山東鹽、海州鹽の增産計畫が進められてをり、今後益々重要性は增してくる。
又現地の曹達工業の將來も、種々な立地的條件に惠まれてをり、邦資の進出も考慮され大いに期待されてゐる

石灰石の切取・京山沿線唐山附近

曹達工業用途

Soda is Useful in Many Ways Soon After it Comes Out of the Factory

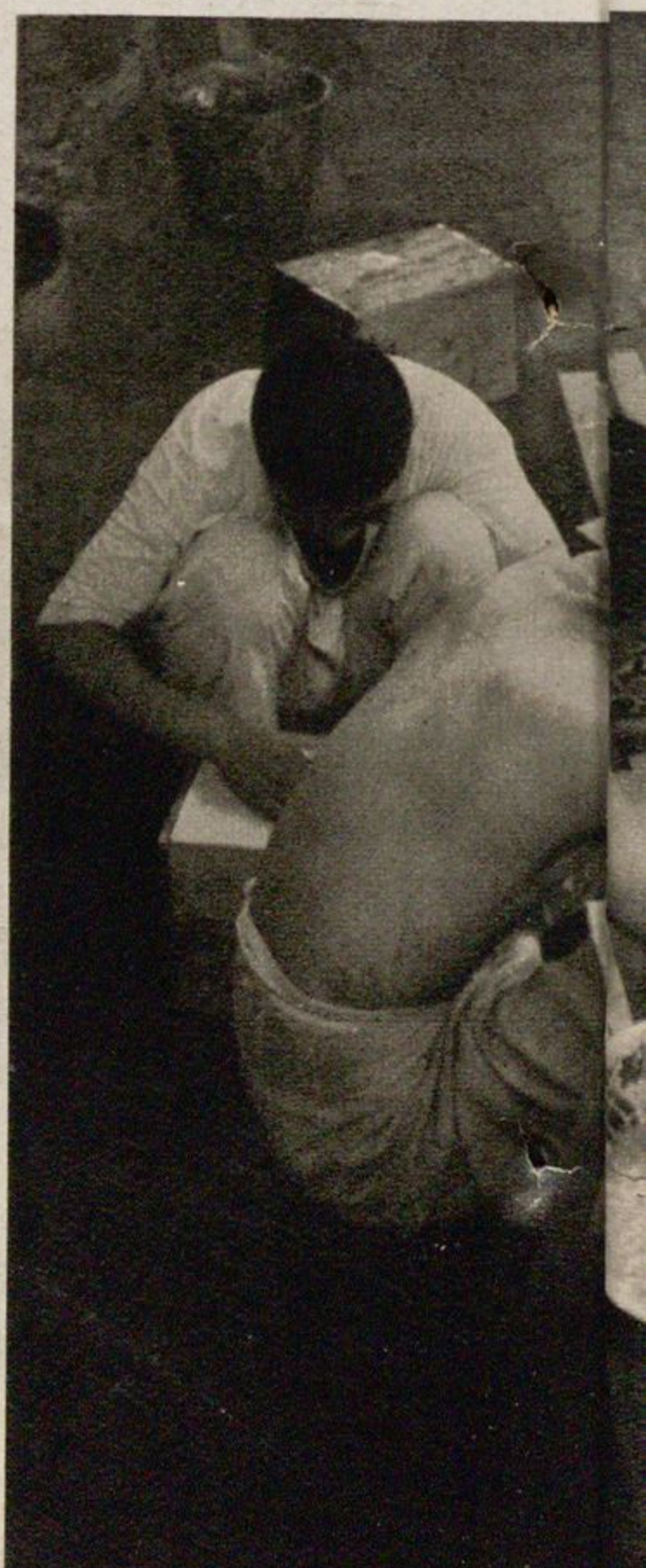
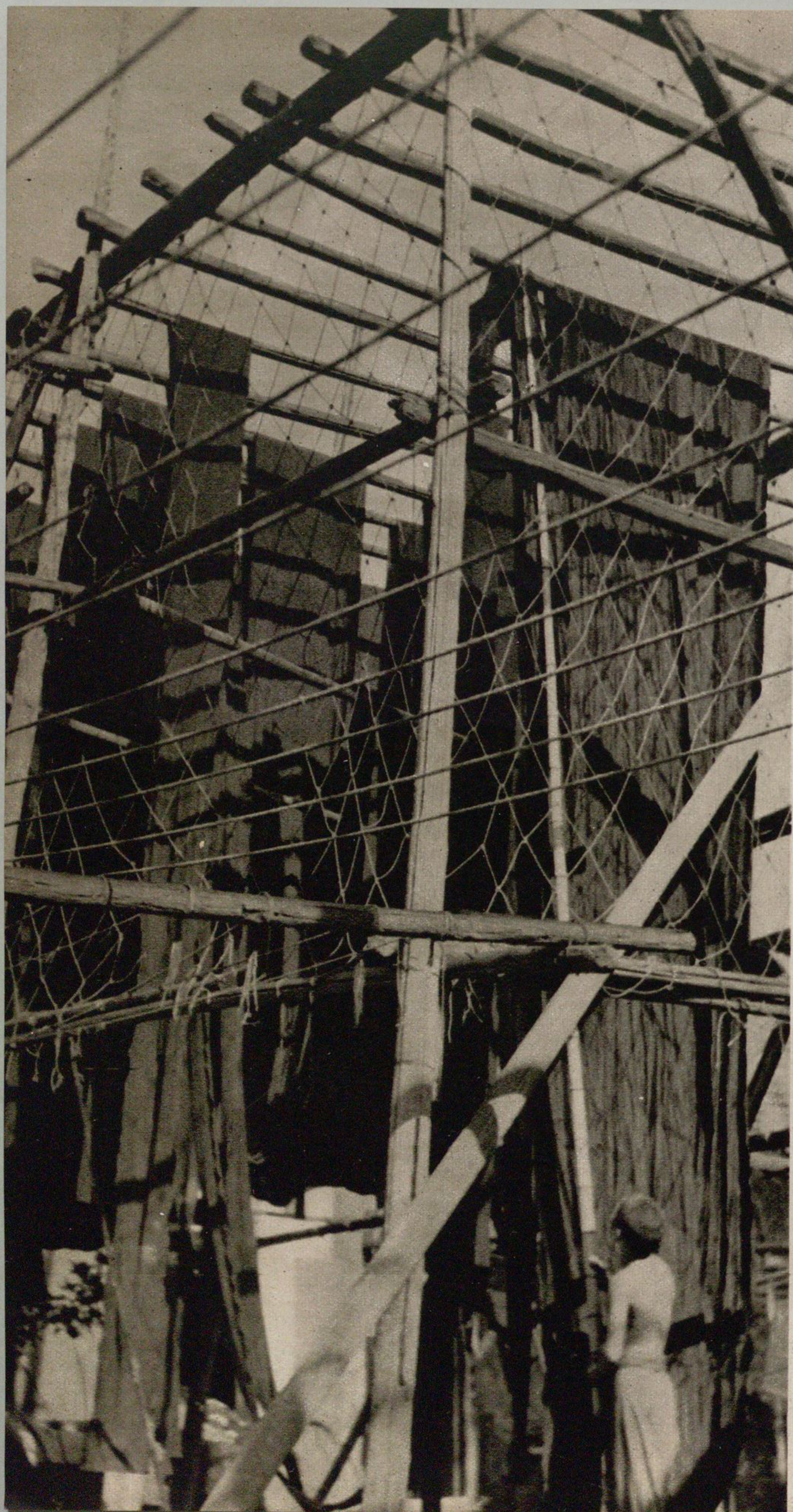
↑硝子工業・秦皇島

→羊毛洗滌・順德

曹達工業により生産される曹達類の用途の重なるは次の通りである

曹達灰＝苛性曹達、硝子製造、醬油速製、洗濯曹達、羊毛の洗滌

苛性曹達＝人絹、人織工業、石鹼、染料、製紙

戰時に於いては火藥製造原料

其の他重曹、鹽化カルシウム、炭酸カルシウム等が生産される

石鹼製造・北京

← 染色工業・北京

放牧を終へて・蒙疆

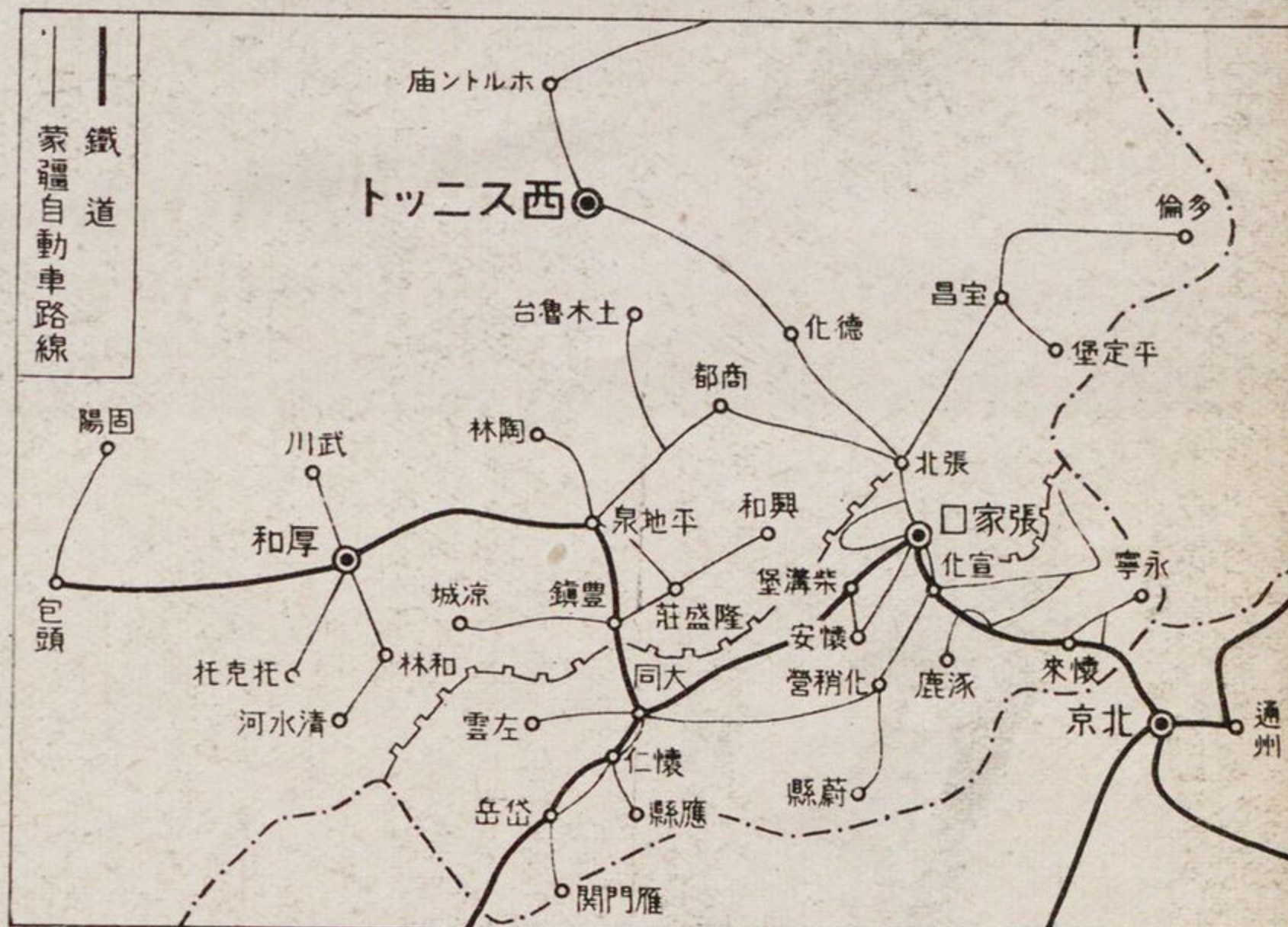
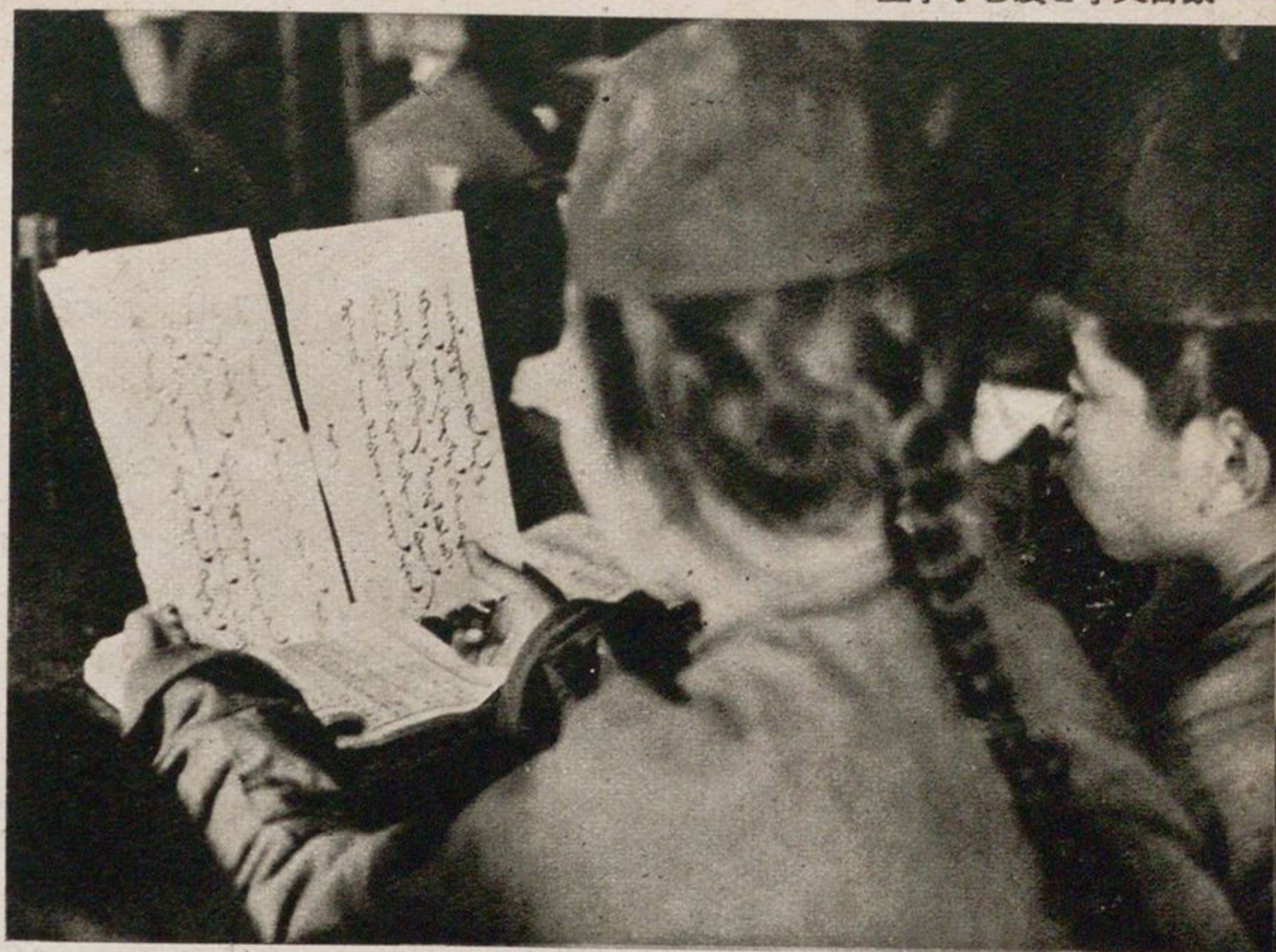
察哈爾盟多倫牧場

Herding up of Sheep on the Fertile Pastures in Mengchiang

蒙疆の小學生

錫林郭勒盟西蘇尼特王府

Primary School Children in Mengchiang

蒙古文字を讀む小學生

事變を境として、蒙古の學校教育は其方針を一變した。即ち事變以前には、內蒙古軍政權を除く全省は、國民黨政府の治下に、三民主義、聯蘇容共の精神に基き、反滿抗日の一本槍で、自然これが教育方針となつてゐた

昭和十二年八月、皇軍の張家口入城以來、續いて同九月大同占據、更に十月綏遠入城となるに及んで、僅か三箇月で、反日滿勢力は驅逐せられ、其に代つて防共親日滿を旗印とする蒙疆三政權が成立を見、防共善隣の教育方針は確立せられたのである

之に伴ひ、特に初等教育刷新の重要性に鑑み、先づ小學校の教職員、教科書の全面的更改に着手し、漸次上級學校に及ぼす方策が採られ、專ら新情勢を認識せしめ、防共睦隣の方向へ指導して、着々實績を擧げてゐる

校庭に列んだ生徒たち

修理列車に乗つて現場へ急ぐ華北交通の社員

附近の子供に菓子を買つてやる鐵道警備の兵隊

北支蒙疆の

鐵道を守る者

軍鐵一致

Railway Guards Who Protect the Railways in North China and Meng-chiang from Communist Hordes

古　　　柏

The Famous Oak Tree in the Middle
& South Lakes Park in Peking

午睡二題

空は靑、何と圖太い風景ではある
單純剛直な大八車に積まれた痲袋の充實した力感を御覽なさい
寢そべつた苦力の夢は何か
おそらく澄透つた空より虛無に近いだらう。働く者の强さである
疑あらば牛に訊け!!
（寫眞右は張家口大境門外取引所で）

☆　☆

北京の蚤はかうして眠る
客を待つ間のひとときだ
賃借の洋車一つを引ずつて、しがない日暮しにも安息はある
大地も凍る多の夜半、胡同に眠る宿なしの洋車ほど憐れに覺ゆるものはないが、かうした大道無人の境地には、さすがに生活力の根强さを見る
だが夥しい北京の蚤達にも時代の敵、自動車が襲うて來た
（寫眞上は北京・門前の洋車夫）

The Rickshawmen and the Cart-Pullers Indulge in Their Much-Earned Siesta after a Hard Day's Work

酸梅湯と團扇

五月に入れば既に夏の風景、酸梅湯の屋臺が出る。此頃氷棍兒が急激に殖えたやうだが、とても酸梅湯の比ではない。サイダアなど論外の下司。但し酸梅湯にも上下はあるが、概して甘酸つぱい風味はハイカラものとは斷然違ふ。琉璃廠の信遠齋は北京隨一の聞えた店だ。一度試して御覽じろ。中央公園の古柏の下で汗を癒すのも惡くない。屋臺ものは當分推薦しない方がよからう。作り方は？干梅と氷砂糖と三盆白、木犀の花を加へて煮つめる、それを適宜にうすめて冷すのだ。屋臺でコツプ一杯四五錢、本格で十錢位のもの

☆　☆

日本ならば澁團扇と云ふところだらうそれを翳して日よけにして歩く。一般に舊式では帽子を冠ることが少ない、冠つても廂がない（洋式のソフトはハイカラ人が冠る）それで此樣な風景になるのだが、いかにも夏らしい

この棕櫚の團扇はむろん南方の材料で簡單にして強い、炊事用にもなる

Summer Drinks and the Fans Under the Burning Rays of Sun in Peking

中南海公園

Middle and South Lakes Park, Peking

北京西長安街の東路北に新華門がある丹緑の大門には先頃迄臨時政府の表札がかかつてゐた。この中が所謂中南海公園である

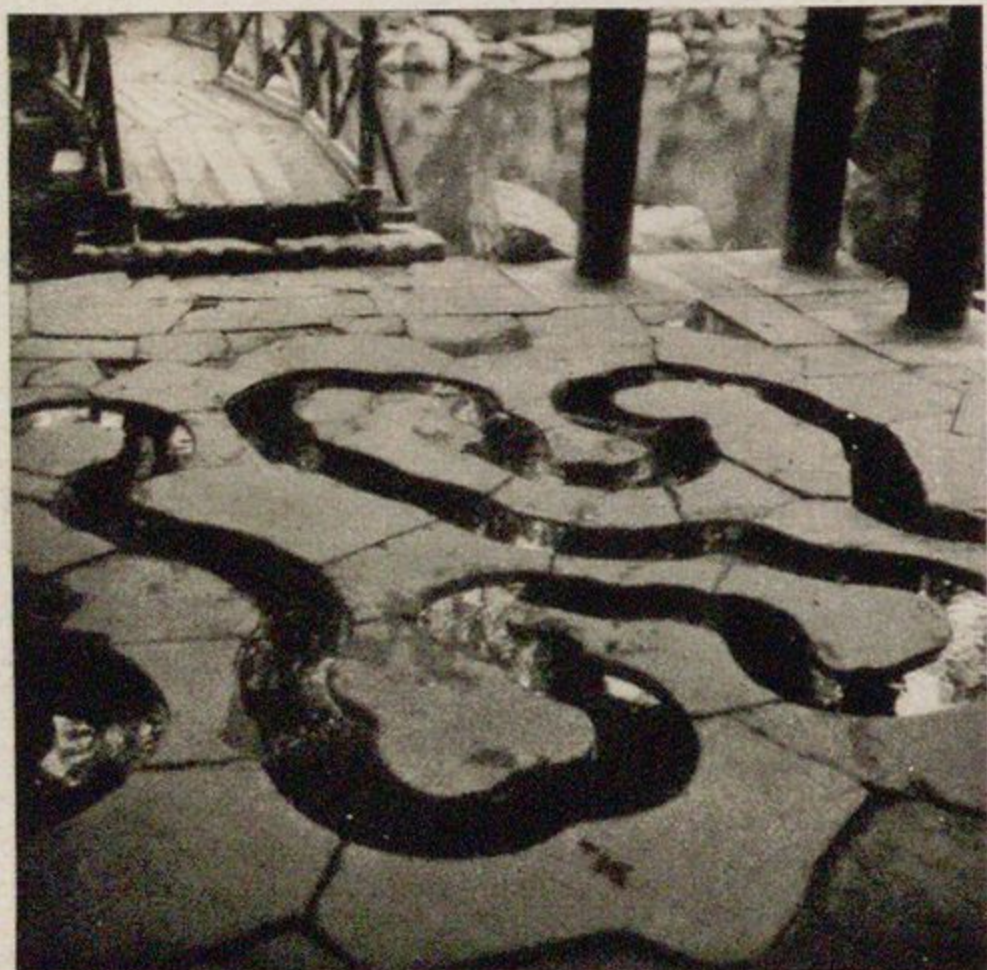
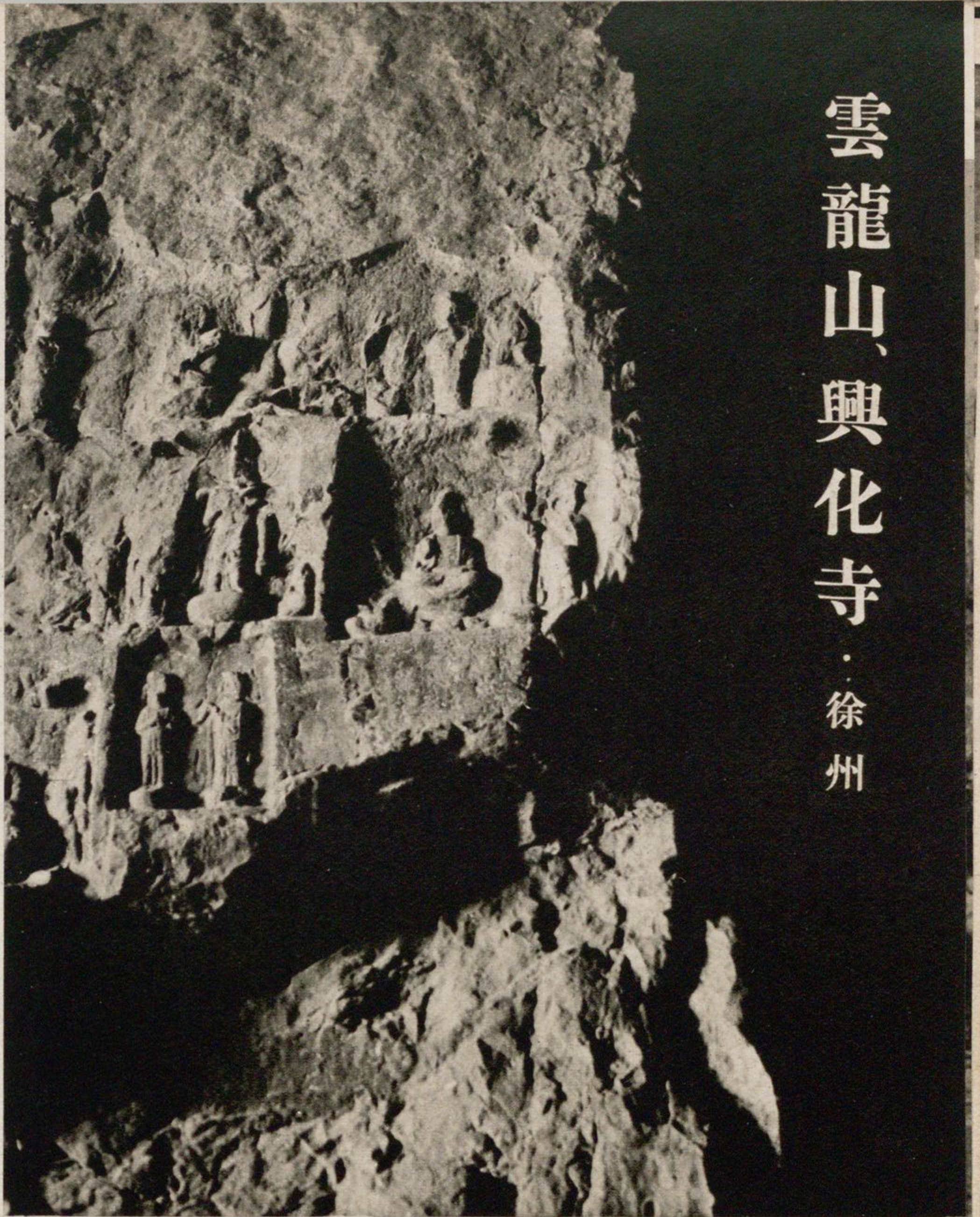
紫禁城の西苑は即ち太液池で南、中、北の三海に分れてゐる。水は皆西郊の玉泉山よりひいて德勝門から流入る。三海の中で北海は早く外人の遊覽を許された所で、民國十四年には全く公園として開放した。中南兩海は總統府が置かれてゐたので長い間禁制區であつたが、首都南遷によつて民國十八年開放されたのである

南海の正門新華門はもと寶月樓と云つて彼の武英殿の浴德堂と共に香妃の哀艶な傳説を持つてゐる。門を入ると正面海中に浮ぶ小島があり、五彩琉璃瓦の樓閣が影を落して美しい。これが瀛台で、光緒帝が自强政策を決行せんとして、西太后に幽閉せられた所（涵元殿）。北岸に豐澤園あり、東岸に石造の珍しい流杯渠がある

中海は南海の北に續く。西南隅大禮堂の裏から北海の白塔を仰ぐ眺はなかなか佳い。北京八景の一、太液秋風はここらの趣である

西岸近く懷仁堂の東にある水泳プールには此頃モダン河童が泳ぐ

流杯渠

瀛台の福元宮

雲龍山、興化寺・徐州

徐州の南郊にその市街を一望に收める雲龍山といふ山がある。宋の武帝が屢屢遊んだところで、孝子節婦を頌へる日本の鳥居の様な牌坊が林立してゐるこの山の頂きに興化寺がある。本尊は雲龍山の石佛と言はれる岩壁に刻まれた高さ三丈餘の大佛で首の部分だけが泥でつくられてゐる

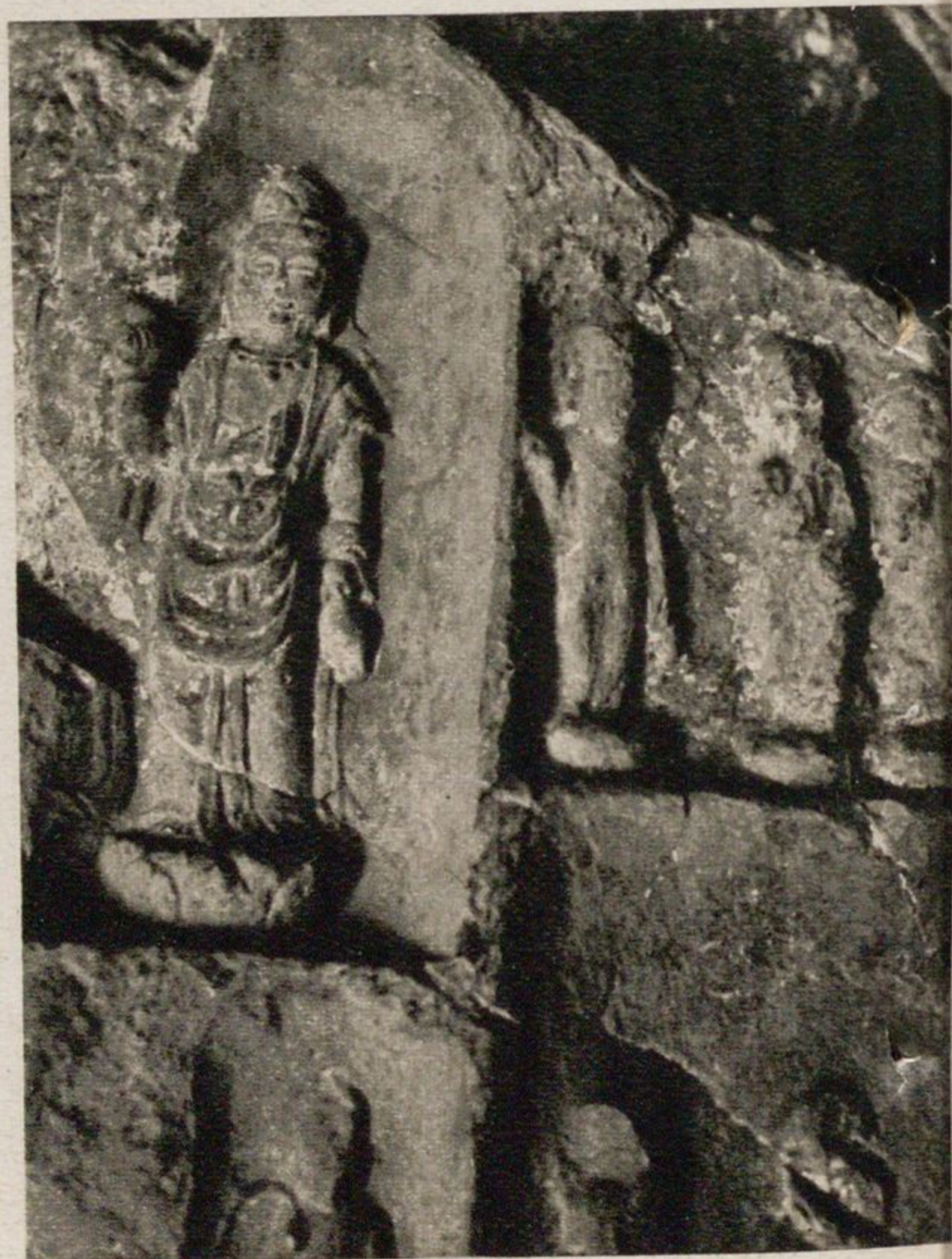
この石佛の周圍にはやはり岩壁に刻まれた多數の小さな小佛龕がある。象にのつた普賢菩薩の多いこと、觀音像のわきに供養者の立像や跪像が刻まれてゐることが特色である

☆詳しくは記事頁・水野清一「徐州石佛寺」參照

一人で立つてゐるのは觀音像で、二人立つたのは觀音菩薩と供養者の像である。座佛の下には銘文が刻んである

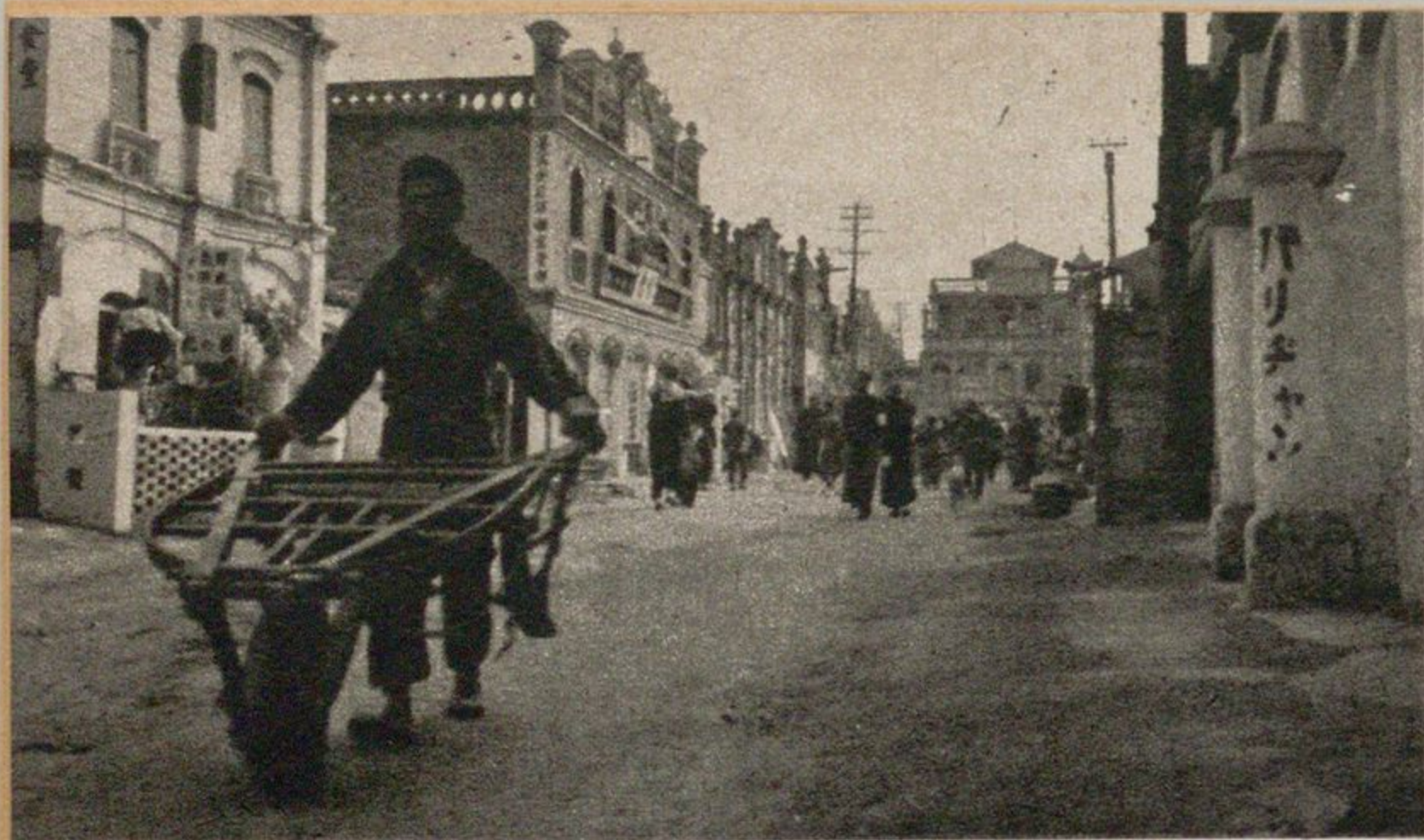
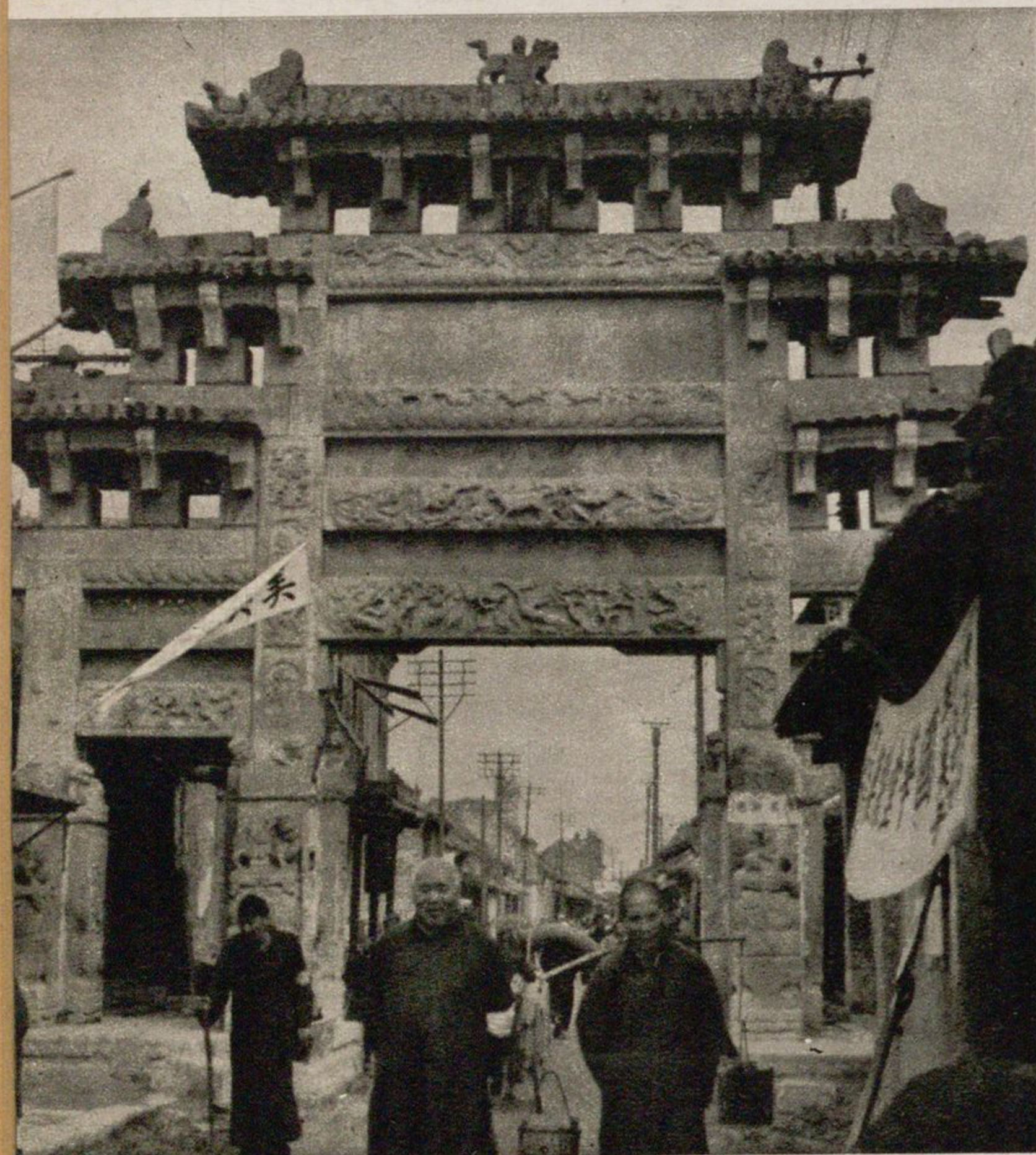
顏をうしなつてゐるが、代表的な倚像佛の龕である。腰をかけてゐる本尊は彌勒佛で、左右が聲聞菩薩、力士といふふうになつてゐて、みな枝をつらねた蓮華の上にたつてゐる

雲龍山の旌表（孝子節婦を頌德する碑）

高さ三丈といはれる雲龍山の石佛

左端の水瓶をもち、麈尾をもつて立つてゐる佛像は觀音菩薩である

mt. Yun-Lung and the Hsing-Hua Temple, Hsuchou

新郷

新郷は京漢沿線の主要都市で河南省の北突起部に位してゐる
周代には鄘國と稱され、隋の時代に新郷縣が置かれ元、明、淸を經て今日に至つてゐる。縣城は站の東方約二キロにあり縣公署の所在地である
現在京漢線は北京からこの地まで運轉され、道淸線はこゝを分岐點にして東西に延びてゐる。又昨年五月軍鐵一致の努力により開通した新開線の起點である。隴海線開封に通ずるこの新開線は京漢、隴海兩線を結ぶ重要路線であり、新郷はかくして交通、經濟上の重大なる使命を有する要衝となつた
事變前僅か三萬であつた人口も現在六萬に倍加し、在留邦人も二千名を數ふるに至つた
市街は衛河を控へ（舟便あり）城內、城外、北關の三部からなり、市況は一般に城外が活氣を呈してゐる。小麥、棉花、落花生、鷄卵等を產出し、蠶業製粉等の大規模な工場がある
今後益々發展の一路を辿る狀況に供へ五ケ年計畫による新都市建設工事は目下着々進涉しつゝある

日本文字の看板が見える城内の街

城内中央にある特異の石門

反共スローガンの書かれた民家の壁

南門より城外を望む

Snapshots from Hsin-Hsiang on the Peking-Hankow Line

アンペラを利用した[illegible]・北京の夏

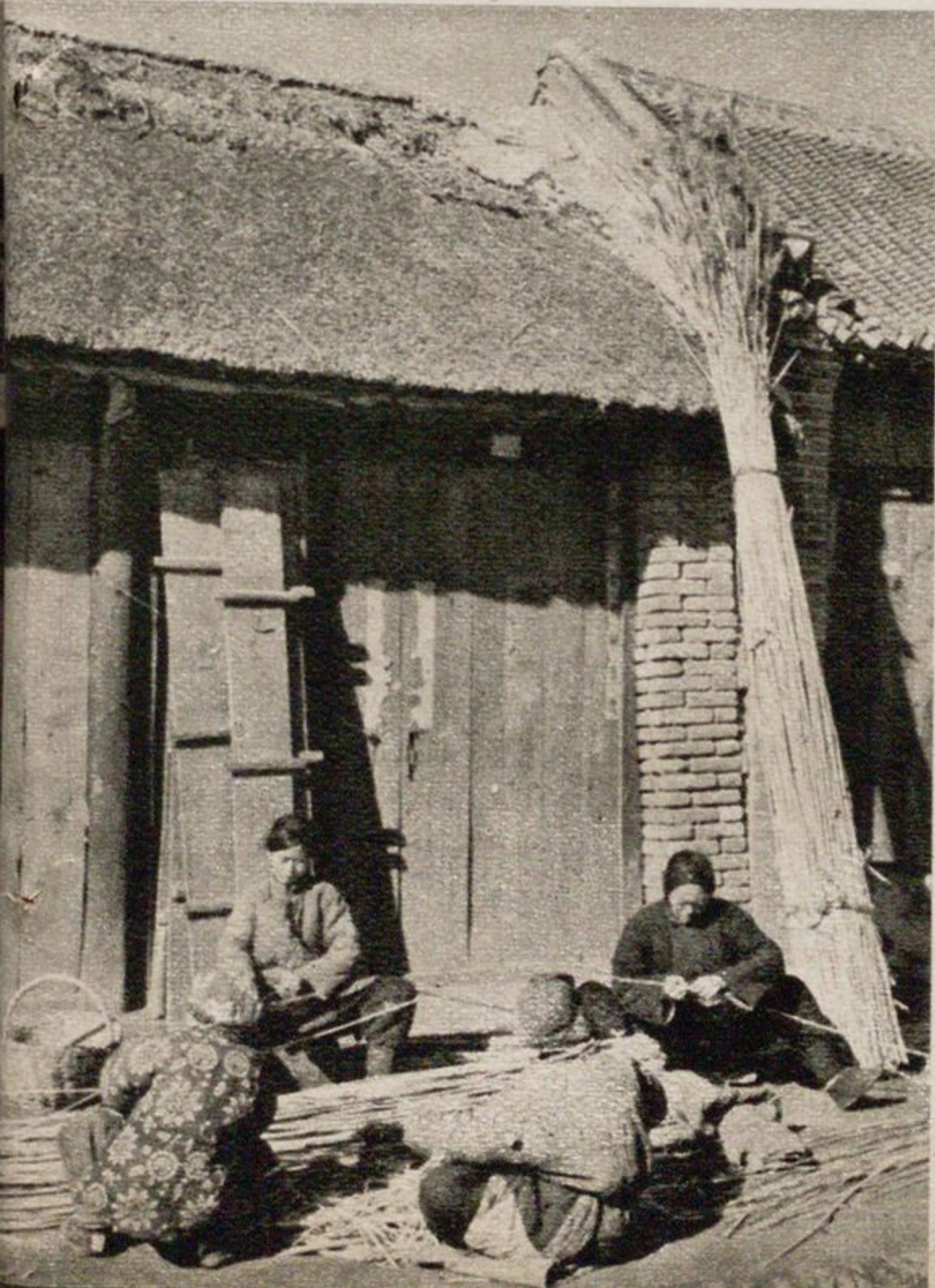
蓆（アンペラ）

ライラックの花が散つて、アンペラ作りの天棚（日蔽）が北京の大街に、胡同にチラホラ姿を見せると夏が來る暑さが增せば天棚の數も多くなり、三伏のころには北京の町中天棚で蔽はれてしまふ。照りつける商店街の軒端も夾竹桃の咲き誇る大官の院子も、大きな影をつくつて涼しくなる

毎夏天棚に使用されるアンペラの數は五六十萬枚と云はれ、北京に無くてはならぬ銷夏法の一つである

保定の東方安新縣はその產地で、附近一帶に廣大な潤澤地があり春になると一面靑々とした葦が自然に發生する。秋になると刈り上げて、よく乾かし、晒してアンペラに編む。この地方唯一

一家みんなで・開

小さな子供も材料の皮むきのお手傳ひ・開封

輸送に利用される華北交通のトラック

の生業であり、住民の大半が從事してゐる

縱七尺橫四尺、縱十尺橫五尺の二種類があり一圓から二圓程度の相場である年產一千萬枚、これらは先づ北京に運ばれ五六百萬枚が每年滿洲國及び關東州に向け輸出される。支那におけるアンペラの用途は天棚の外、支那家屋の天井、下敷、貨物のカバー等甚だ廣く、北京の取扱商だけでも四、五十軒、みな宣武門外にあつて相當の資產を有してゐる

Mat-Rush Industry provides food for many a mouth in North China. Mat-Rush Mattresses and Sun-Shades in Summer are Always in Great Demand

すだれを織つてゐるところ・開封

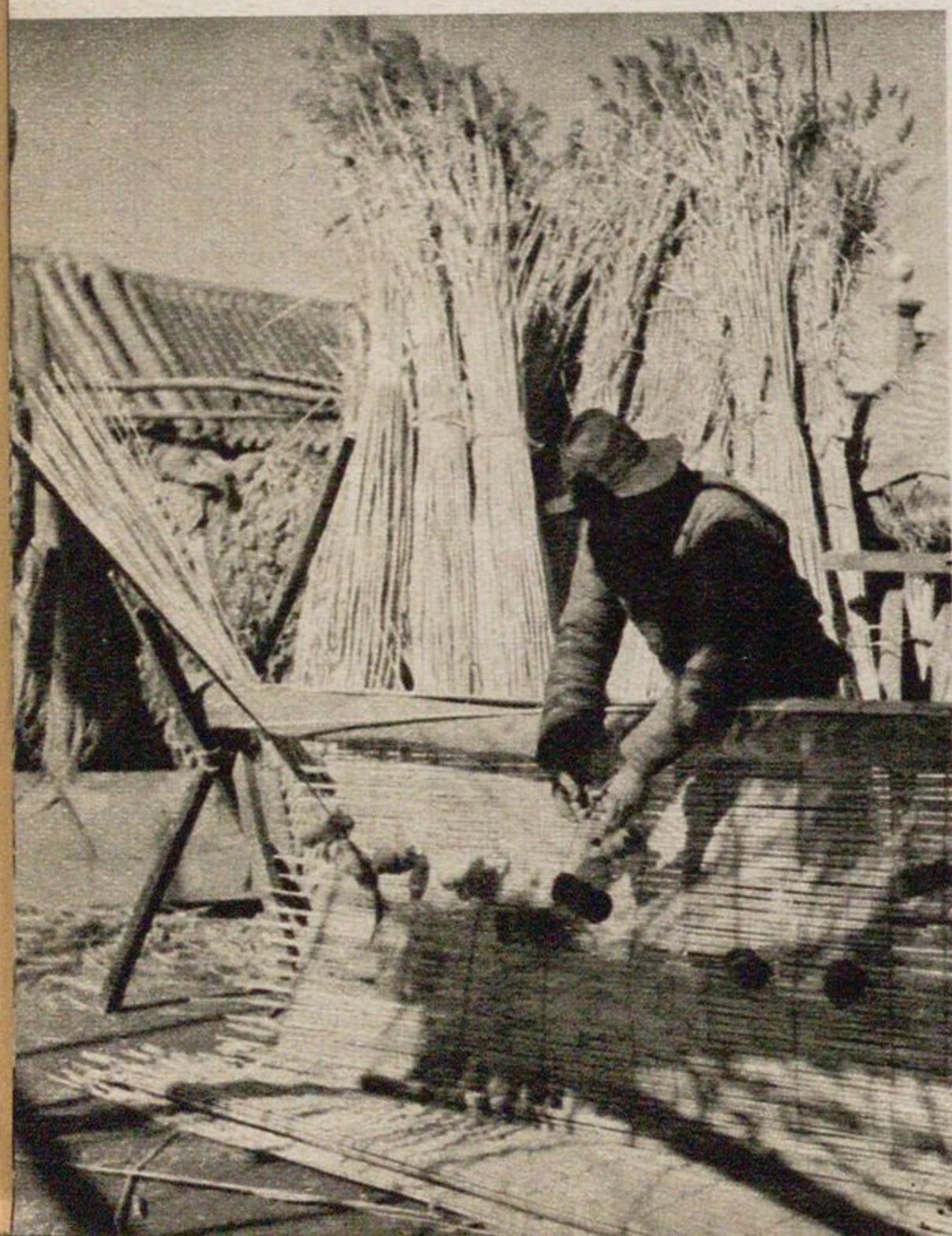
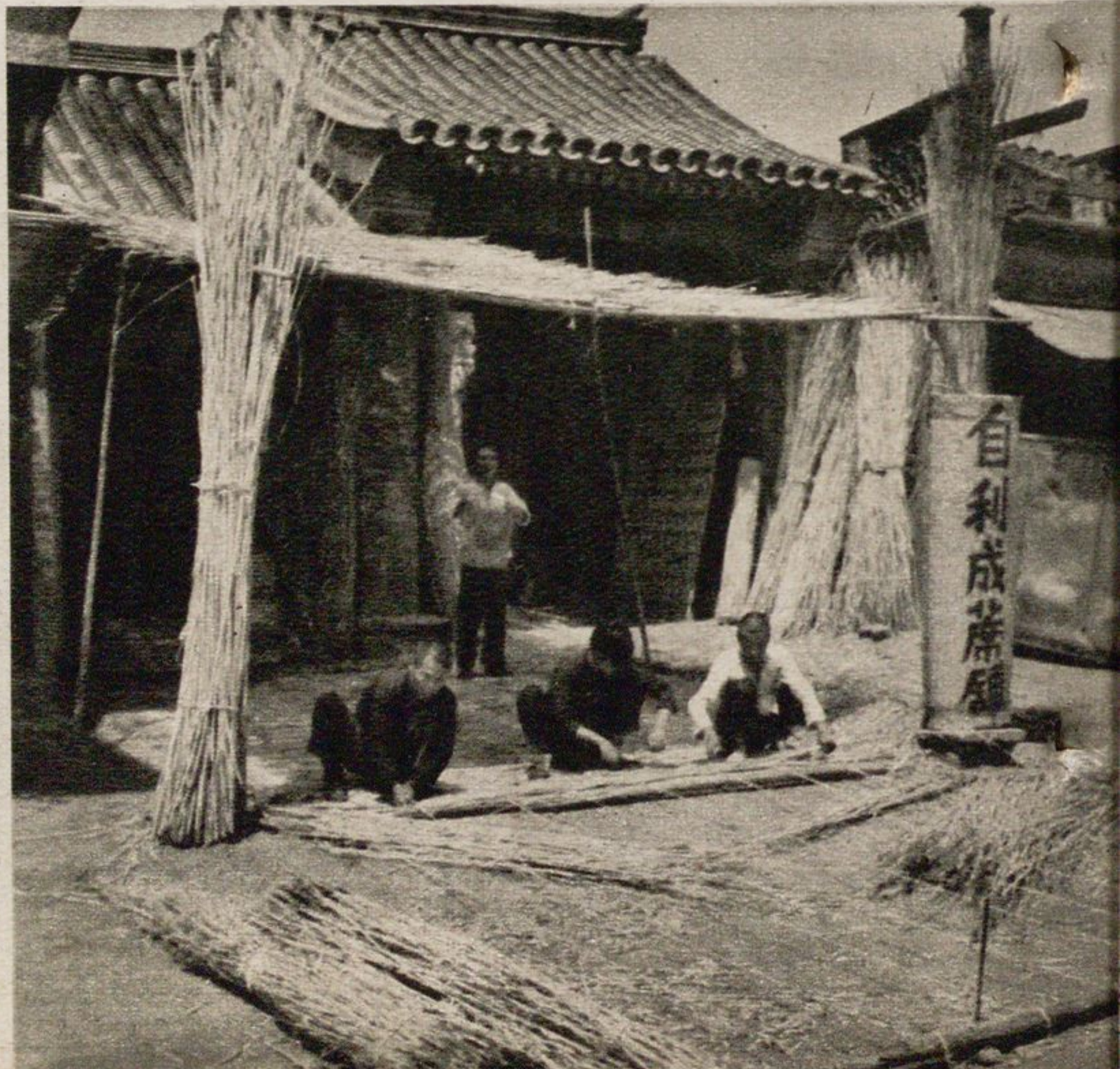
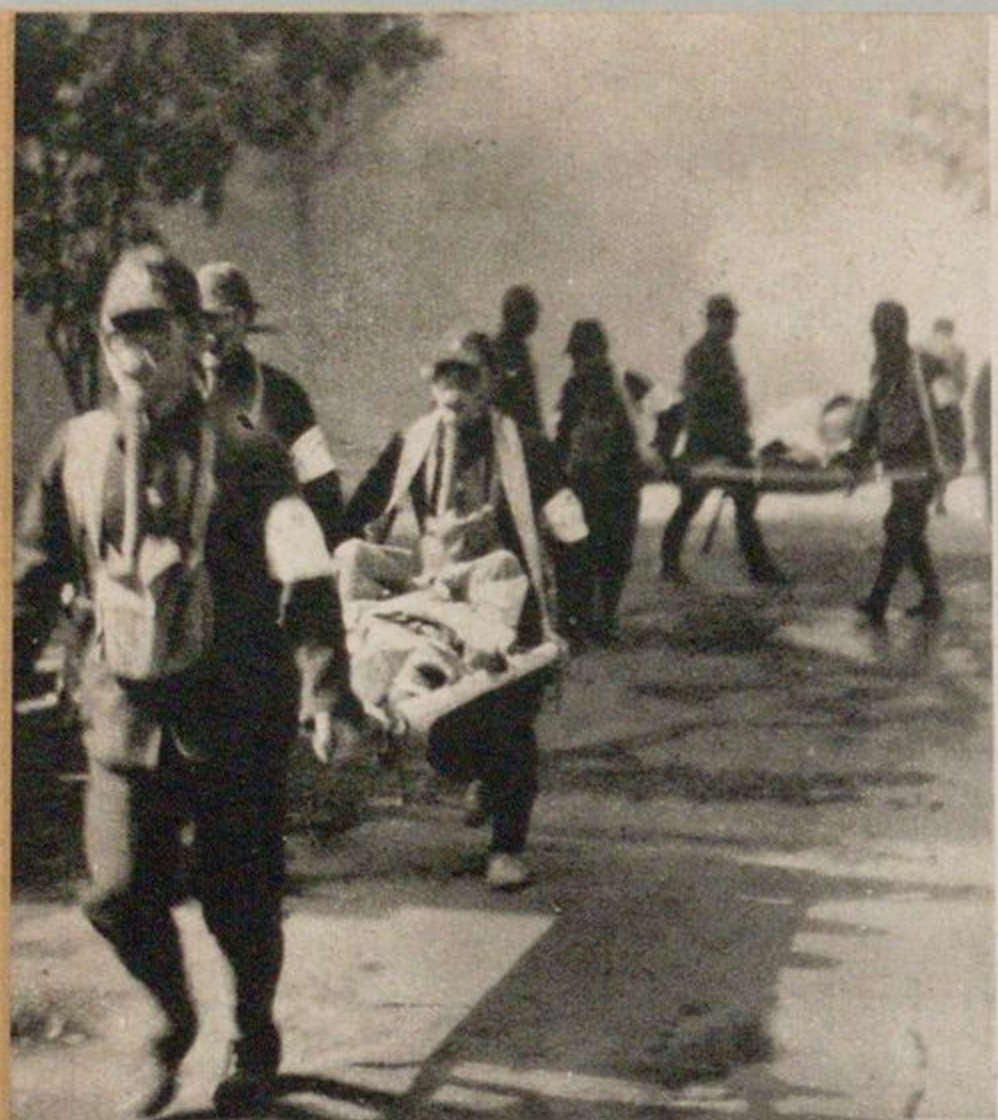
織蓆屋（アンペラに書かれた看板）・北京

大きな歴史
小さな歴史

Photo Flashes from North China

⇨北支の水運事業は華北交通の手に

華北交通會社では、中國內河航運公會の發展的解消に伴ひ四月一日から同會の業務を繼承し北支に於ける河川の航運を全面的に統括することになり、その經營河川は三千キロを突破、鐵道自動車とともに水陸交通の一貫的綜合經營は一段と强力化した

北支經濟對策協議會開催⇩

興亞院華北連絡部主催の下に四月十六日から三日間、北京に於いて開催された華北經濟對策協議會は、刻下に於ける日支經濟の重要諸問題について、內地側政府當路者と現地側との間に隔意なき意見の交換が行はれ今後の經濟對策に種々好結果を齎らすものと期待されてゐる

お茶と生花の講習會

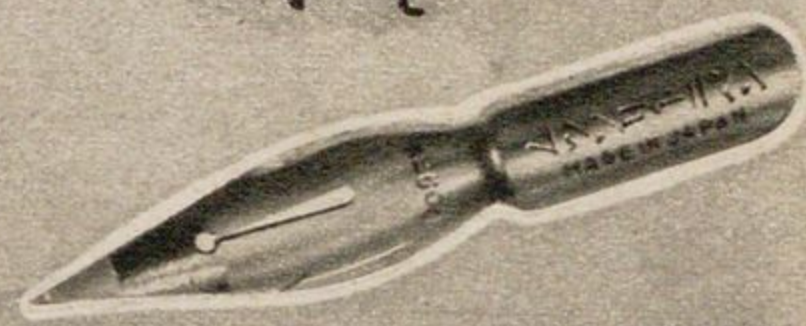
華北交通會社では一千五百名の婦人社員が働いてゐるがこれら大陸進出の娘さんに淑やかな日本の禮儀作法を敎へようと會社では北支全線各地にお茶や生花の講習會を開いてゐます

華北交通創業一週年

わが大陸政策の據點である北支蒙疆の水陸交通網を總攬する華北交通會社は、日華合辦組織により昨年四月十七日創設されたがその一周年を迎へて、事變發生以來皇軍と共に聖戰の華と散つた六百の社員の慰靈祭を行ひ、皇紀二千六百年奉祝を兼ね記念大運動會を催した

北京初の防空演習

華北の首都、北京を空の脅威から護る初の防空演習は四月九日から三日間、日華官民協力の下に極めて眞劍に行はれ所期の效果を收めた

無敵！國産第一位
讃えよ國産！
ムッソリーニペン
スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産の逸品！
新生國策
イリヂユウム白金ペン付
クラウン萬年筆
流線型、
書きよく
體裁優美
構造堅牢
大阪
株式會社 澤井商店

北支インフレの特異性

朝倉美奈雄

一

聯銀券の膨脹と物價の昻騰を如何にして抑制するかといふことが北支に於ける當面の重要課題として取り上げられて居る。昭和十四年十二月末現在聯銀發行高は四億五千八百萬圓に達し十三年十二月末現在一億六千八百萬圓に比し二億九千萬圓の増加を示し、本年に入つて早くも五億圓を突破し依然として激増の趨勢に在る。事變前に於ける北支三省の流通高は四億二、三千萬圓と言はれるが、聯銀券の流通地域は大都市並に華北交通の鐵道沿線を中心とする所謂聯銀券地帶に限られて居るので、事變前に比して流通高は非常な膨脹を來して居ると言へるのである。また天津卸賣物價指數（一九二六年を一〇〇とす）に就いて見るに昭和十三年末の一七六・二四に對して十四年末は三二一・二三、十五年二月末は四〇三・九六と驚異的昻騰を示して居る。

かくの如き通貨膨脹の原因は何かと言へば、軍費の現地支拂、開發會社關係の各國策會社事業資金、一般事業資金、現地行政費、對滿受取勘定、旅行者持込金等がその主たるものである。これらは直接に聯銀券新規發行原因をかたちづくつて居るので本年度に於ても巨額の膨脹が豫想されて居る。

われ〳〵が北支インフレーションを検討するに當つて見逃がすこと出來ない點は、日本インフレーションに見られない特異性が存在することである。北支インフレーションには日本その他高度資本主義國に見られない二つの要素を備へて居る。卽ち發行、回收の兩面に於ける特異性であつて發行の側に於ては信用通貨の造出が無いために資金の放出は直接聯銀券新規發行の原因となり、回收の側に於ては預金——公債消化のコースを辿る通貨回收の機構が欠如して居ることである。前に列擧せるが如き通貨發行原因中には高度資本主義國に於ては信用通貨によつて賄ひ得るものを含んでゐるにも拘らず北支に於ては金圓の移動による聯銀券の發行に俟つほかないのである。所要資金は總べて新規發行の原因となり而かも一度放出された資金は回收の機構が欠けて居るといふ積極、消極兩面の特異性が聯銀券の幾何級數的膨脹の原因を爲すものである。これが北支インフレーションの本質とでも言ふべきものであつて日本インフレーションに對して根本的に特徴づけられるものである。この特異性は言ふ迄もなく金融機構の不備に基くものであり、換言すれば北支が多年半植民地的被搾取地帶として資本主義經濟機構に何等見るべきものがないことを意味する。

二

北支の特殊化、日滿支經濟ブロックの完成は聖戰遂行の最高目標の一つであつて單なる空念佛であつてはならないのである。現在行はれて居る政策乃至方式が現在既に欠陷を示して居るとか、或は將來に於て禍根を胚胎して居ると假定するならば、卽時これを改變せざる限り實害なき空念佛の方がましなのである。

然らば當面の課題であるところの通貨膨脹は如何にして防止し得るかといふに、結論を先きにすれば物による回收、卽ち日本から物資を北支に供給する以外に方法は無いのである。軍費の

内容

グラフ

よみもの

現地支拂と言ひ、開發資金の調達と言ひ金圓の移動によつて賄ふ以外に方法はない。而かも共產軍の態勢から見ても現實の事態は北支の作戰は極めて長期に亙るものと見なければならぬ。また北支の經濟開發の促進と輸送機關の整備は一日も疎かにすることが出來ない。

勿論現地に於て軍費や開發資金の合理的節約を圖つたり、旅行者の渡航を制限することの必要なことは言ふまでもないがこれには自ら限界がある。先きに述べたやうな北支インフレーションの特異性から見ても、長期に亙る北支作戰の圓滑なる遂行と經濟開發の促進に要する資金が金圓の移動によつて賄ふ以外に方法がない點から見ても、物の裏付けによつて通貨を健全たらしめることが絕對に必要なのである。少くとも當面の對策としてはこれ以外に妥當な方途を發見し得ないのである。

聯銀券の發行目的を見ても判る如く、聯銀券の性格は金圓であるといふ點を見逃がしてはならない。聯銀券は本質的には純然たる外國通貨に非ずして金圓の變形なのである。聯銀券は日本の北支に對する債務であつて、聯銀券の膨脹は日本の債務が嵩むことを意味する。日本が北支から不足資源の供給を受ける、供給を受けるために經濟開發を行ふ、經濟開發資金は金圓の移動に基く聯銀券の發行によつて賄はれる——この循環を考察すると開發資金としての聯銀券は本質的に見て日本が振り出した約束手形である債務の支拂を、約束手形の決濟を物で行ふことは理論的にも正しいし、また實際問題としてもそれより他に方法は無いのである。

中國聯合準備銀行券

三

本春の議會で圓ブロツク向け輸出問題が喧ましい論議の的となつたが代議士諸士の意見は「圓ブロツク向け輸出が多過ぎる、大いに制限を加へよ」と言ふに在つた。圓ブロツク向け輸出超過十三億圓といふ貿易統計の數字が大いに物を言つたやうであるが對北支輸出超過額は日本側貿易統計によれば僅かに一億四千萬圓、支那側の北支六港貿易統計によれば一億八千六百萬圓（朝鮮臺灣を含めて二億七千萬圓）の北支側の入超に過ぎない。而かも北支の場合に在つてはこの貿易統計の表はす數字だけを以て日本の北支に對する物の供給過多を結論づけ得ない事情がある。日本と北支間の國際收支の所謂純計を檢討しなければ物の供給過多であるかどうか判らないのである。

即ち極めて大ザツパにその國際收支純計なるものを考察して見よう。北支に於ける軍費支拂及び在留邦人が生活必需品として消費せる日本商品輸入代金（昨年度推定約八千萬圓）は純計を見る場合には國際收支から除外すべき性質のものである。日本經濟と北支經濟との間の物の相互依存關係を論ずる場合にはこの兩者は當然除外さるべきものであるからこれを控除して國際收支の純計を見るならば日本から北支へ物の供給過多といふ結論は生れて來ないのである。寧ろ逆に北支から日本へ輸出超過であつたと言へよう。貿易統計によつて見ても圓ブロツク向け輸出超過十三億圓のうち北支が一億四千萬乃至二億七千萬圓に過ぎないといふ點は北支の重要性に比して餘りに比重が低い。而かも先きに述べた如く純計として見れば逆に日本側の入超といふに到つては北支の當面せるインフレーシヨン對策として大いに再檢討の餘地があるのではないだらうか。日本は物が足りなくなつたと言ひ、或は日本が大切か北支が大切かといふやうなことをよく耳にする。しかしながら、長期に亙るであらう北支の作戰、焦眉の急を要する經濟開發、或は聯銀券の金圓的性格、約束手形的性格等の何れの點から見ても日本と北支とは一體である、別々の存在として分けて考へることが出來ないのである。日本の繁榮は即ち北支の繁榮であり、北支の破滅は即ち日本の破滅である。事變前と異つて今日に於ては日本と北支とはそれ〴〵身體の一部分を形づくつて居るのである。

これは單なる抽象論ではなく、少くとも過去三ケ年間に成長した現實の事態なのである。この現實の事態を認識して最も建設的なインフレーション對策が講ぜられることが望ましい。

（一九四〇、五、一四）

北支の農村 13

北支と甘藷

みづの・かほる

日本にはその昔、青木昆陽先生が農村の飢饉を救はうとして、甘藷の普及奨勵に盡されたことはあまりにも有名な話である。

筆者は北支に來て、先づ不可解に思つたのは、この人口過剩で土地の分配の少い北支に、而も災害の多い北支に穀作よりも產量が多くて、豐凶差の少い甘藷の栽培が、一般に普及されてゐないことであつた。

云ふまでもなく、北支が緯度の高い關係から、寒冷な冬期間種薯の貯藏が困難であるといふことは、甘藷作付の少いといふ大きな一理由にはなるが、これも工夫をこらせば左程困難なことではない筈である。

北支は一大農產地區でありながら、今や打續く災害と戰禍とによつて、未曾有の食糧不足を來してゐる。而も一方、日滿支經濟ブロックの結成から迫られた棉花や小麥の增產、必然的に增加し行く商品作物の作付の增大は、今後食糧不足に一層の拍車をかけるであらうことは、あまりにも明白な事實である。しかしてこの諸事象を克服し、北支八千萬民衆の食糧自給の安泰を策するには、如何なる妙法があるといふのであらうか。

もとより從來あまりにも未開發のままにとり殘されて來た北支の農業生產を、先進國日本の技術によつて協力し、或は品種の改良に、或は土地改良に、或は肥培の方法に、或は病虫害の驅除豫防に、等々によつて食糧作物の改良增產を圖るべきは、今更云ふまでもないことであるが、たゞこゝに食糧作物の增產を眞向ふから反抗する北支農業の、宿命的な水旱の災害が橫はつてゐることを三思しなくてはならない。

何人も云ふ、而して筆者も云ふであらう。この災害の排除こそはまさしく北支農業建設のための基礎工作であらねばならぬ。卽ち治水、理水、治山の策を施さずして、永遠な進展を約束する北支農業はあり得ないと云ふことを。從つて今日北支の農業生產力を、殊に耕地の九割を占むる食糧作物を普遍的に計畫的に增進せしめるなどゝ云ふことは、およそ難中の難であらう。

が而し、この災害の排除は決して一朝一夕に行ひ得るものではないことは、これ又云ふまでもないことである。そこで筆者は、敢へて青木昆陽先生の遺訓に倣ひ、北支の甘藷栽培の普及こそ北支農村食糧對策の近道であることを、すでに五、六年前から唱道し來つた所以である。幸ひにこの裏書は、北支の農村調査に當つた筆者等によつて、到る處に發見されて愉快に思ふことである。

甘藷は北支には、氣候土質の關係から、山東の中部以東に多いのであるが、この地帶の貧窮農村は、甘藷あるが故に今日露命をつなぎ得てゐるのである。ところが甘藷の普及に一つ困つたことには、北支の農民は貧乏なくせに、食物に驕りと見えをもつてゐることである。出來ることなら米麥類に、高粱、玉蜀黍よりは粟に、甘藷よりは高粱、玉蜀黍にといふ風に、貧乏してもおいしいものを喰ひたがり、食物の見えを張りたがる。この點、日本の南國地方に於ける農民のやうに、米は作つてもそれを賣つて甘藷を常食としてゐるのとは少し見當が違ふ。

青島近傍は甘藷の栽培が多いのだが、あの青島の紡績工場へ働きに出るといふ男女の群れの一つの望みは、うちの甘藷より工場の宿舍の米麥を喰ひたいといふことにあるといふのだから困つたものである。

ともかく甘藷は一般の穀作に較べて單位面積からの產量が、人口支持力から云ふと二倍乃至三倍に匹敵し、而も旱魃に強く、虫害が少いといふ結構な作物である。たゞ穀物のやうに主食物として用ふる場合、あまりおいしくないといふだけであるが、これも調理加工の方法を考へれば、まだ〳〵上手に食べられると思ふ。北支農民の甘藷の利用は、日本などに較べて著しく劣つてゐるやうである。

北支の甘藷栽培の歷史は古いかも知れないが、今日の如く一般に擴がつたのは、恐らく近年のことでないかと思ふ。從つてその栽培品種に於ても、產量に或は品質に於ても、日本のやうな優秀なものを見受けないやうである。

山東の東海岸地方には、比較的利用の方法も進んでゐて、屑薯は自家に酒を造つてゐる。このあたりに行くと、高粱酒はもつたいなくて飲めない。一般の家庭では、手製の薯燒酎を客にすすめてゐる。甘藷は又蔓が家畜の飼料として、極めて結構なしろものである。生蔓をそのまゝ喰はすと下痢をするの

で、これを乾してやるのだが、牛に馬に羊に豚に何れも好んで喰ふ。北京の街にのそ〳〵やつて來る駱駝は、ほとんどこの甘藷蔓で生きてゐるやうなものである。

以上述べ來つたやうに、食糧不足と飼料不足、このことが甘藷栽培の普及によつて、一擧に抹殺されるわけである。抹殺されないまでも、緩和されるといふのだから有難い。甘藷の作付増大は、やがて北支の家畜の質と數の低下を喰ひ止め、更に改良増殖に一歩を進めて行く上に、大きな貢獻をなすものであることを筆者は敢て斷言する。

北支南半の春の早い地方では、その栽培時期によつて春薯と夏薯との別がある。春薯は、早春苗を育てゝ植ゑつけるもの、夏薯は麥の跡地に春薯の蔓を利用これを摘んで植ゑつけるもの、收量から云ふと夏薯は春薯の八割で、甘味も亦春薯の方が優る。しかし南の地帶では、夏薯と麥を組み合して二毛作となるからたのもしい。

そこで又一つの物語を挾まう。

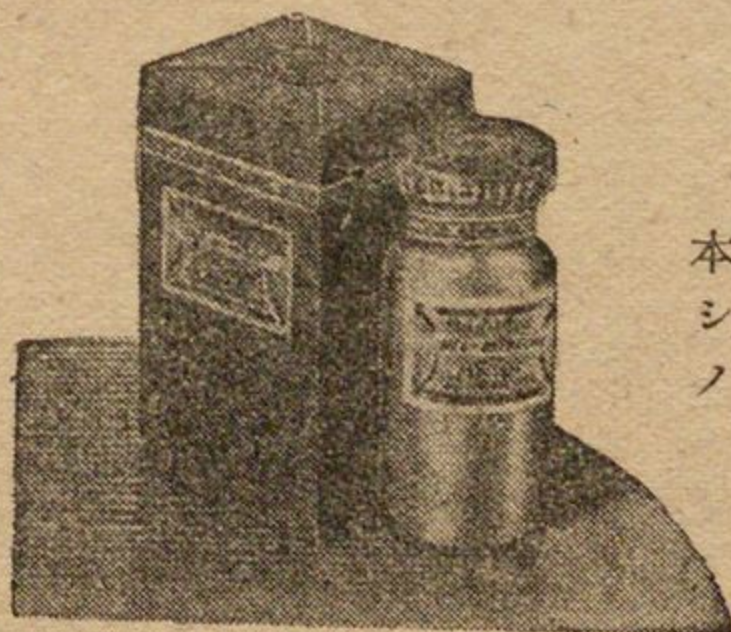
前にも述べたやうに、青島近傍は甘藷の栽培が非常に盛んで、膠州灣の周邊農村はその作付の半ばは甘藷である。これは一つは、その土質が砂質礪角の地帶であるといふことにも起因する。筆者はある年この地方の農村調査に出かけたことがある。それも會社に使つてゐるボーイが膠州の片田舍であるといふので、そのボーイに案内させてボーイの家郷へ這入つて行つたのである。

かねてボーイの村の一帶も、甘藷が常食として用ひられてゐることを聞いてゐたので、どうせ部落のことで宿屋は無いからボーイの家に厄介にならなくてはならないが、それにしてはボーイのうちは貧乏だから毎日甘藷ばかり喰つてゐるに違ひない。その甘藷を客分の筆者に毎日食べさしては、ボーイも氣がねするであらうと思つて、出發の際、自分の生れ故郷はやはり甘藷が常食で、子供の時から三度が三度甘藷に育つて來たので、何日でも甘藷で暮せる。米や小麥粉を筆者のためにわざわざ用意しなくてもいゝと、ボーイをすつかり安心させて置いたのである。

さて部落へ這入つてボーイのうちに泊つたのだが、ボーイは筆者の心づくしてある甘藷好きを眞つ正直にとつて、五日四晩甘藷のぶつとうしで粒ものゝ一つも食膳にはのせてくれなかつたのである。二月ごろであつたから、貯へてもう味の變りかけたやうなのを蒸したのと、粉にしたのを蒸して褐色の甘藷團子にしたのとの交互である。それに晩は、手製の薯燒酎が出て來る。

今更米をと言つたつてボーイの面子もあり、又田舍のことで間に合はず、たうとう甘藷ばかりで我慢したが、お蔭で腹の調子を狂はしてしまつた。幸ひ溫突に尻を据ゑて、代る〳〵部落の人達を呼んで聽きとり調査をしたのでおし通せたのだと思ふ。今もこの時のことを思ひ出すと、腹の心がぐら〳〵とうなつて來さうである。

この地方はよほど貧乏してゐると見えて、甘藷は出來るだけ生のまゝ貯藏し、蒸して食べることにしてゐる。乾して粒に碎いたり、粉にして用ふるのは贅澤な事で、乾して水分を發散して斤量を減らすことが惜しいといふのであるから、貧もこゝまで來るともはや何をか言はんやである。それでも、この地方の人達や子供の體格は、決して他地方の穀作地帶のそれと較べて劣つてゐないのである。

もうこのあたりで甘藷話は打ち切らう。たゞ筆者は最後にも一度くりごとを述べたい。「北支の農村開發に、北支の農村食糧對策に、甘藷栽培の普及奬勵が忘れられてゐる。願くば北支の農村に今様青木昆陽先生が現れて、北支の食糧飢饉を救へ」と。

可園雜記

加藤新吉

春、亞細亞の地塊が溫まるにつれて高氣壓が低氣壓に變る。恰も四五月の頃北京は其爲に風が多く黃塵が多い。杏子、海棠、其他とりどりの春の花は風塵の裡にぱつと咲いて忽ちぱつと散る。其風塵がやつと靜まる頃には日中の氣溫は三十度を超えてゐる。ただ朝夕は流石に涼しく單衣をきて院子―中庭の夕を樂しむことができる。

私の院子は廣さ約五十坪、方一尺位の塼―敷瓦が敷詰めてある。之を圍む家屋は何れも柱をもつ廊があり、院子へはそこから緩い三四段の石階を踏んで下りることになつてゐる。乾燥した多、これ等北京の院子は土埃が渦卷いて殺風景を極めるが、新綠と共に瑞々しく生きかへるのである。

去年の淸明節、私は院子の周邊の塼の一部を鄭寧にとりのけて、紅海棠と連翹と楡葉梅と丁香とを植ゑた。楡葉梅の一本が寒で枯れた後には今年の淸明に白海棠を植ゑた。其他は皆今年も美しく花が咲いて散つて今青葉が繁つてゐる。その木々の根もとには、家人が門前を通る花賣男を呼入れて植ゑさせた三色菫と金盞花と金魚草とが亂れ咲いて居る。

院子の三方の廊と一方の中門の石階には棕梠、柘榴、夾竹桃、木槿、檸檬紫玉蘭、玉簪花などの鉢が並んでゐる。多くは去年中國の友達が呉れたもの、そのうち柘榴が赤、檸檬が白の花を既につけてゐる。眞中に据ゑた嘉靖の水盤は主人いささか自慢のもの、毎年睡蓮を植ゑ金魚を放つ。

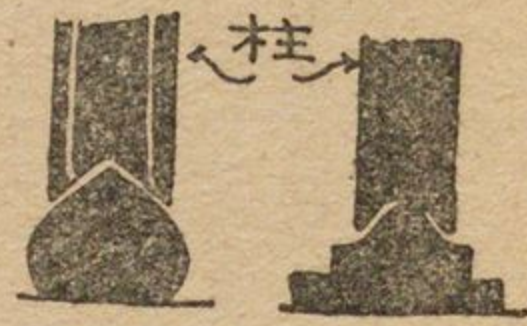
いま五月なかば、夕食がすむと家人はこの水盤の邊に籐椅子を配る。寒からず、暑からず、塵を舞はす風さへ吹かねば、讀むによく語るによく茶をのむによくぼんやり空を眺むるに宜しき院子である。こゝには此頃太白星と三日月とが早くから姿をみせる。院子の東と南の屋根から伸びてゐる古い槐の梢には殘照があかあかとして居る頃から輝く。だから家人は庭に出るなり必ず先づ西の空を仰ぐのである。

燕と蝙蝠とが毎夕この院子に來る。燕は陽のある間は青空の奥に融けてしまひはせぬかと思はれる程高く飛び交はして居るが、黃昏と共にだんだん降りてきて一しきり私達の座つてゐる頭の上をすれすれとびまはり、やがて蝙蝠にその後を讓る。

「アルノの岸に佇むことこれで三晩川下に沈む美しい夕日をみた。その後を彩る夕映の空を眺めた。水に落つる両岸の白壁、水を斷つ古橋、涼しさがその薄闇から涌いた。月は大分滿ちてきた。月光の裡に蝙蝠がとんで、遠近の寺院の鐘が雨の如うに降注いだ」 昭和五年六月フィレンツェにて

「宿の窓に立つと夕陽が沖の中洲を眞紅に染めるのが見えた。運河の口から海へかけて輝く波の漂ふのが見えた。座つてゐても寺院の塔の光るのが見えた。圖を出してみると一はサンジョルジオ、一はサンタマリアの塔であることが判つた。窓の外水の上夕映の茜の空を燕がすいと飛びすいと飛んだ」 同年同月ヹネチアにて

少年の日を過した故鄕の家が森の一軒家であつた爲か燕や蝙蝠が庭先に來ることは殆どなかつたので、これ等伊太利其他の旅の思出の外にはつひ彼等に親しんだ記憶がない。私は北京に來て初めて彼等と一緒に住んでゐるといふ氣がするのである。

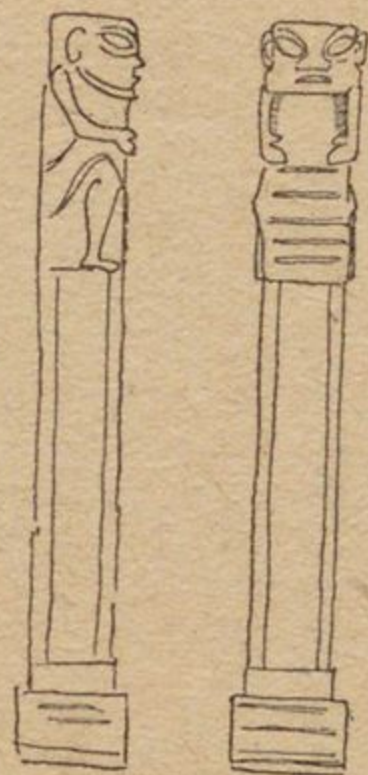
支那建築の話

柱と礎石

村田治郎

柱について一瞥を試みよう。

支那建築を組み立てゝゐる多くの細部のうちで、柱ほど古來變化の少なかつたものはないかも知れない。北京宮殿の柱の偉觀は同時に唐代盛時の建築のそれを偲ばせるものがあるとも言へさうである。變化が少ないことは年代的特徴を示さないのを意味するから、それだけに平凡で取り立てゝ言ふに足ることがない。

しかしながら他の半面に於いて、支那建築特有の雰圍氣をかもし出す有力な要素の一つが、實に幾つもならび立つ大きな圓柱であることを思へば、柱が支那建築にとつて非常に重要な役割をつとめてゐるのは動かし難い事實である。

支那建築に柱が使はれはじめたのはもとより太古からであらうが、現在殘つてゐるのは漢代のものが最も古い。高さ一米二三十位の中空煉瓦（空甎）製の小さな柱は、多分墓に使つたものであらうが、その例が方々にあるからさほど珍らしくないらしい。しかしベルリンの民俗博物館で見たのは角柱であつたが、上部に小さな妙な形の人物像がついてゐるのを珍らしく思つた。

同じ博物館にある石柱は高さ一米六十で、上下は四角な臺形で中央の部分が圓筒形になつてゐるのは、他の柱にもよくある形だが、下の臺の上に蛇がからんだ形が刻み出されてゐるのと、臺に建和元年五月云云の銘があるのは特に貴重な資料である。建和元年といへば西暦百四十七年にあたり、後漢の末ではあるが年代が確かであるから、比較の標準となるので都合がよい。

かうした遺例によつて察すれば後漢時代には既に支那的柱のあらゆる形が完成してゐたと見られる。從つて後世の柱は大體後漢ころの傾向に追隨したとも言へるが、しかし南北朝時代になると外來要素があらはれて、今迄の柱に多少の變形を來たした。特に柱の上部――それを柱頭といふ――がギリシヤ風をまねて渦卷形をつけたり、また茱葉のやうな葉の彫刻をつける傾向が雲崗石窟で見られるが、しかしそれは必ずしも佛教建築以外にまでひろく用ゐられたか否か疑はしいと思ふ。

それにくらべると、同じく佛教美術の影響によつて發生した裝飾法ではあるが、柱頭に蓮瓣をならべてつける手法の方がはるかに普及したと思ふ。蓮瓣をならべる裝飾は柱の中ほどにも用ゐられて、未だ嘗て見られなかつた美しい形が出來上つた。尤も以上のやうなものは主に石彫であるから、木造の柱とは違つた形が表現しやすかつた點もあつただらう。

かゝる特色ある形は唐代になるともはや大半影をひそめたらしく、最も勢力があつたのは後漢以後の傳統的な形の柱であつたと思ふ。木造建築は唐代以前のものがすべて消滅し、遼代になつて始めて現存してゐる狀態だから、木柱の實際のものも亦遼代以後のしか遺つてゐない。しかしそれ等については餘りに平凡なので、殆んど語るに足ることがなささうである。

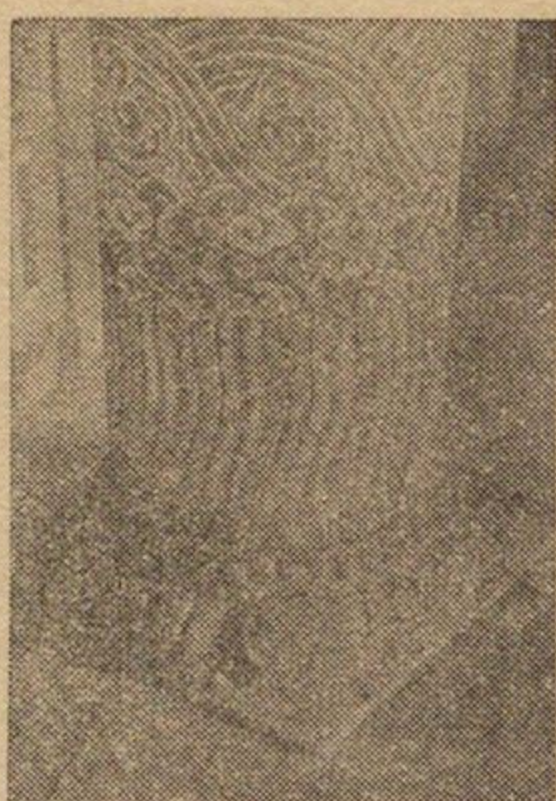
たゞ遼末ころの一例だが厚和の東郊に立つ萬部華嚴經塔といふ白塔には、豐かな肉づきの見事な龍が卷きついた柱が殘つてゐる。かうした龍柱はその後にも用ゐられてゐるが、龍の姿が次第に貧弱で見るに耐へないものに變つて來る。龍は普通立體的な彫刻にするのであるが、しかし中には柱の表面に龍の繪を描きつけてゐることがある。繪のことを言へば龍ばかりではなく、リボンのやうな布片の文樣をはじめ色色の裝飾が描かれてゐるが、その例はあまり多いとは言へないやうに思ふ。

柱は昔はもちろん一木でつくられてゐたもので、現に北京の大廟の柱なども さうだつたと記憶するが、それが淸

デュラント 陶山務譯述
四六判三六四頁 定價七十八錢
哲學夜話
平明にして然も生彩ある敍述は宛ら小說の如く、希臘より現代に至る大哲の思想を萬人のものたらしめんとする劃期的名著!!
この書はあらゆる哲學書中での眞に革命的なものとして刊行後十數年を經た今日、本國のアメリカで未だに年々十數萬部の賣行きを見せてゐる劃期的な名著である。一體哲學書といへば、無味乾燥と澁滯難解の代名詞の如く考へられ、著者自身も亦却つてこれを神祕にして深遠なるものと誤解し、これを哲學の王冠とさへ思ひこんでゐるのであるが、この書の著者デュアラントは、玆にこの王冠をかなぐり棄て、十數年の努力によつてこれを平易明解なものとなした。希臘より現代に至るまでの世界大哲の群像が「大寫し」となつて、讀者の眼前を通り過ぎてゆく有樣は美しくもあり、愉しくもある。著者が、開卷第一頁に於いて「哲學といふものの中には娛しみがある」と說いてゐるのは、正にこの意味からである。世界の哲學者達がこの書に絕讚の辭を浴びせてゐるのも蓋し當然のことであらう。哲學はこの書によつて初めて大衆のものとなつた。故鄕の爐邊で、或ひは都會の職場の一隅で、煩の邊に微笑を漂はせながら、愉しく讀める哲學書を求めるなら恐らくこの書を措いて他にあるまい。
パアル・バック
新居格譯
ノオベル賞受賞
大地
第一部
第二部
第三部
(全三冊)
あらゆる階級の人々に讀まれ、支那を知る唯一の書と絕讚、いまや百萬部を突破せる世紀の名作。
各冊定價七十八錢
杉浦重剛謹撰選集
倫理御進講草案
四六判四五〇頁
定價七十八錢
諸家感想集謹呈
入澤宗壽博士曰く 修身書を編纂した經驗のあるものは、杉浦重剛先生がこの書の題目と內容に如何に甚大な注意を拂はれたかに、感謝の念を禁じ得ないであらう。帝王の學を盛らるるに苦心の存するところを見ないでは措かないであらう。「敖不可長欲不可從」の章の如きも特に題を禮記に採りてその句を以てあらはし、歷史にその據を求められた苦心を見る。末章の高僧傳の如き又甚だ意味深きを覺える。

代の建築になるとよほど大きな木が不足したものらしく、北京の宮殿で見るやうに寄せ木にしてある。

柱で一寸不可解なのは柱が礎石に接觸する部分に、僅かばかり缺ぎ込みをつくつてゐる點である。それが東西又は南北にあたる位置にあるから、柱を立てるとき向きを正確にきめるために設けたのだらうといふ說があり、また

清代の柱と礎石

或る腐蝕菌研究家は柱の下部は腐りやすいので、柱の心の方へ風通しをよくして常に乾燥させるためだと主張したが、結局未だ確かなことはわかりかねると言つて置きたい。

◇

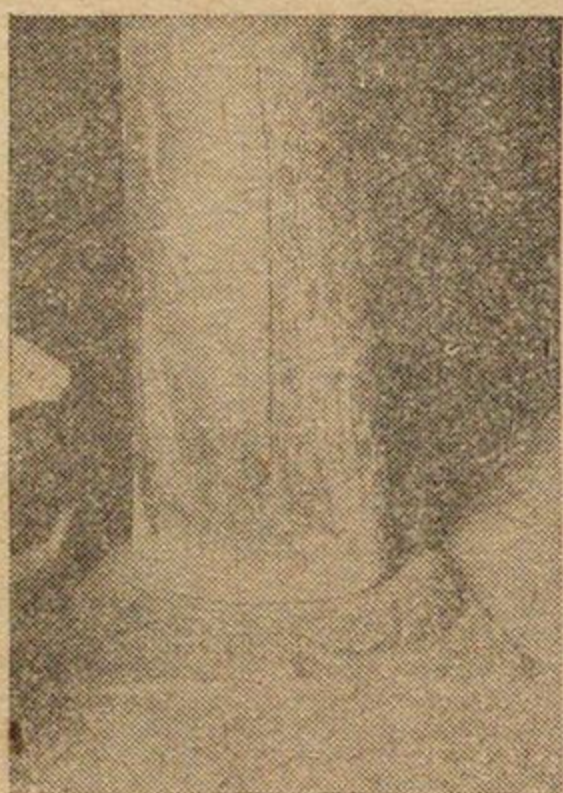
柱の下の礎石は誰しも取るに足らぬものと思はれてゐるだらうが、石造であるだけに捨て難い特徴を示してゐる場合が多い。古い時代は掘立て柱であつただらうが、それが漢代より少し前にはもはや礎石が用ゐられてゐた形跡が見られる。

漢代の礎石には少くとも二つの形式があつたらしく、一つは柱頭と同じく四角な臺のやうな形であり、他の一つは上部が水平でなく桃のやうな曲線を持つものであつた。後者の場合は礎石の曲面に合はして柱の下端をゑぐり取つたことであらう。畫象石にはさうした柱と礎石の場合が描いてある。もとより四角な臺狀の礎石の方が高級の建築に用ゐられたことは察するに難くなからう。

南北朝時代には立派な蓮瓣を刻み出した礎石があつたことは雲崗その他の佛窟の彫刻でわかるが、大同の北の方山に於ける北魏帝陵や、大同郊外の北魏建築址から出た礎石は、柱のあたるところが單に饅頭形の繰り出しになつてゐるのみであるから、實際建築の場合は簡單な礎石が多かつたのだらう。

その傾向はずつと清代まで續いたといつてよいから、支那の礎石の諸樣式は南北朝で完成したと見ることが出來よう。唐代になると柔かな感じの厚肉の蓮瓣が刻まれてゐるが、かつて、滿洲東部の渤海首都の宮殿址から美しい琉璃瓦製の蓮瓣が發掘されて、やはり柱の脚部の礎石のやうに見える場所に用ゐたのだらうと推定されたことがある。渤海は唐文化を攝取した國だからこれも唐の影響と見るべく、すでに漢代から玉の礎石があつたことは文獻に出てゐるのだから、琉璃瓦の飾りくらゐならば唐代に用ゐられたとしても不思議ではない。

遼時代と見なされる建築には柱がただ平たい石の表面上に立つのみで、柱のところに繰り出しさへついてゐない例が珍らしくないのは一奇である。しかし滿洲錦州省義縣奉國寺の大雄寶殿に於けるもののやうに、饅頭形の繰り出しの表面に美しい草花の浮き彫りを施した例があり、同じ傾向は次の金代にも受けつがれたが、私の知つてゐる

義縣奉國寺の遼代の礎石

範圍では遼代ほどこまかい彫刻でなく荒つぽい調子だから、一見して大體の年代がわかるやうである。

この系統の礎石で元代の代表的な例は北京の護國寺千佛殿にある。殿は屋根がすつかり落ちて壁の下半以下しか殘つてゐない哀れな姿だが、礎石の浮き彫りは細工がこまかく非常に立派な作で、遼代のものと言つてもよく金代のものよりもむしろ優秀である。千佛殿址の北側にある一對の石獅子とともに、元代としては少し出來過ぎたもののやうな氣がする。

遼・宋など以後にも引きつゞき蓮瓣を彫刻した礎石は用ゐられた。河北省易縣の開元寺には、唐代といつてもよい程の蓮瓣礎石が遼代建築に用ゐてある。

明清代の礎石は北京の宮殿や大廟などの諸建築で見られる。それらに多いのは、繰り出しの部分が凹曲面をしたもので明代以後から多く用ゐたらしいが、滿洲では清代の中頃、乾隆帝時代から普及したらしく、清初の建築にはすべて蓮瓣礎石を用ゐてゐるのは、支那本土の古式が長く地方で愛好されたのを物語つてゐる。都會の方では新しい流行が起つても、田舍ではいつまでも保守的傾向が強いのは洋の東西を問はない現象であつた。

徐州石佛寺

水野清一

雲崗に滯在して石佛を調査してゐると、隨分いろんな人に面接する機會がある。一度お目にかゝりたいと、かねてからおもつてゐた『大同石佛寺』の著者木下杢太郎氏に、奇しくも雲崗の石窟のなかではじめて拜眉の機會をえた。だいぶおいそぎのやうすで、充分意見をたゝくやうなひまもなかつたのは、このうへもない殘念なことであつた。しかし、そのときのはなしに、こんど徐州で北魏と稱する石佛をみた、あまり大したものでないが、そのうちには唐代にさかのぼるのもある、一度いつてみなさいといふことであつた。そのときは、別に徐州にゆくつもりもなかつた、ただハア、ハアと返事をしてをつたが、北京留學中の小野勝年君が京漢線を南下して、南京へゆくといふので、矢もたてもたまらず、せめて途中までとびだして、さて徐州に降りてみると、まづ何よりその石佛とやらが氣になつた。

☆

徐州といふところは、『麥と兵隊』の印象がばかにつよく、それに必ず、開封鄭州あたりの坦々たる平原にでそろつた麥畑をみたことが、つよく印象にのこつてゐて、徐州もまた、かくのごとき坦々たる麥畑のまんなかにあるやうにおもひつめてゐた。しかし、きてみると案に相違して山のなかにある、百メートルにたりないひくい山であるが、それが四周し、町そのものもやゝたかい丘の上にあるらしい。山は岩山で、いたるところに岩肌を露出してゐるが、それもこんもりと綠樹でおほはれ、寺のやねなどのみえるところがあつて、何となくなつかしい景色である。開封から何の起伏もない平野を、ゴトンゴトン一日はしつてきて、ひくい山のあひだへはいると、そこが徐州なのである。山には寺廟があり、町には高低があり、平地には舊黃河の水たまりがあり、ところどころに雜林があつて北支の單調にして、乾燥した景色になれた目には、異樣にみえるとともに、またわれわれ日本人にはかへつてなつかしくさへ感ぜられる。

それにわたくしども着いた翌日はびしよびしよと雨が降つた。うるほひは十二分だといつてよい。洋車にほろをかけて町をとほりぬけると、赤だいこんのあざやかな色が、灰色の町からぬけだして目につく。それから布鞋のうへにひつかけたあしだが、また北京あたりでみないもので、なるほど雨の多い土地だなあと思はせる。

☆

鹽を買はうとする人の山、麵を買はうとする人の列。石をひきつめた南關のとほりをつきぬけると、そこに石佛のいますといふ雲龍山がある。ひくい石灰岩の岩山で、いま公園になつてゐる。そしてその頂上南面に興化寺といふ寺がある。石佛はこの寺の本尊である。

伽藍は岩の急斜面にくつついてゐてしたからみるとうつくしい。石だんをのぼつて中門をはいると、せまいなか庭があり、岩壁によせかけた本殿がある。明の碑が二三あり、そのうちに正德の重修碑があるから、建物はそのころのものであらう。

なかにはいつてみると、おどろいた。眞正面の岩壁に、高さ三丈と稱する問題の石佛が彫つてある。なるほどからだは石だが、頭は泥である。おそろしいでくのぼうだ。そのうへ近頃の極彩色、何ともしようのないしろものであるが、石佛は石佛であり、大佛は大佛である。徐州なら名物にならぬこともあるまい。

☆

とにかく今の大佛は、名物程度のものにすぎないが、建物が明ごろのものとすると、すくなくともそれ以前からあつたものにちがひない。それにこの佛像は上半身しかあらはれてゐない。胴から下は座像になつてゐるか、立像になつてゐるかすらわからない程度に床の下にうまつてゐる。さうしてみると、いまの建物の規模も、石佛當初のものでないことになり、石佛のできのわるいにもかゝはらず、その創建はさうたうに古いものだといふことになる。

これを徹底的にわからすためには、床した數十尺を發掘しなければなるまい。いまそれができないとすると、さしあたり地上にあるもので議論をすゝめなければならぬ。それにちやうど都合のよいことには、この大佛を彫るために幅十メートルばかりを鑿りこんでゐるが、そのため左右にわずかの壁面ができ、それに多數の小さい佛龕が彫つてある。この佛龕よりは本尊の創建

の方がふるいにきまつてゐる。

ところがさて、その小佛龕であるが、これは一見したところ唐代の佛龕である。龍門や響堂山や、いたるところにこの例、この式がある。しかし、なほみてゆくとその佛龕のまはりに造像記を鑿つたものがある。それをひろふと西壁東面上部に

開元廿二年歳次、、
郭神慶併妻李大園、
、音聲人郭神慶、、
、、、武高、、、

といふ銘がみえる。また東壁南面上部には

上元二年六月十二日、、
、禹、、、、、、爲
□高□願、、及男女
、親、、並□平安
、、、、、、、、
、、、、、、、
、養、、、

また

上元三年四月十一日□盧軍行官
蒼州長、、、
盧縣弟子趙□祥爲父母敬造觀世
音菩薩、、、、、、、供養

とする。このかたはらには、手に麈尾と水瓶とをもつた觀世音菩薩と供養者自身を彫りこんだ佛龕がある。龕は何のかざりもない尖つたアーチ形である。

このほか、十五六種の造像記がみとめられるが、年號の判讀できるものはうへの三つのほかに、北宋政和七年（西歷一一一七）のものがただひとつである。でこゝにある小佛龕が、唐の高宗の上元二、三年（西暦六七五—六）から、玄宗の開元廿二年（西暦七三四）ごろにかけて、つくられたものときまれば、このでくのぼうの本尊も創始は盛唐以前にさかのぼることはあきらかである。

なにしろ、昔のおもかげをほとんどのこしてゐない本尊であるから、盛唐以前といふことがわかつても、また盛唐のものか、あるひはそれ以前のものか、ことによつたら傳へのごとく、北魏にまでさかのぼるものであるかも知れぬ。この附近には漢代の畫象石もあり、北齊の佛首もある、北魏の時代にもこの山の石から何もつくられなかつたとはいひ切れない。小佛龕とともに歸つてからみたのであるが、吳式芬の「金石彙目分編」には雲龍山大佛寺の石壁に正書の北魏眞言六字があつて、太武帝の書だと傳へられてゐるとのことである。しかしこれは親しくみなかつたのだから何ともいへない。みたところからいへば、ただ盛唐以前の創始たることがあきらかになつたのみである。

☆

盛唐といへば、北支那各地に石佛の造建がさかんであつた。東都洛陽にちかい龍門では奉先寺の大佛をはじめとして、萬佛洞、四小洞、東山の諸洞などがひらかれた。徐州は洛陽からほぼ四百五十キロ、いま隴海線がむすぶかはりに馬の背か馬車、乃至は黄河の水運がこれをむすんでゐた。國都で流行した樣式がすぐここにうつしうゐられたし、國都で變化した信仰がすぐここに反映したのは當然である。洛陽でおこなはれた石佛は、とほく黄河の平野をわたつて、この岩山の間で根をおろした。

佛名のわかるものは觀音像以外にないから、佛名の比較は出來ないが、座佛、倚像佛、菩薩、神王等の造佛の形式、かざりのないアーチの龕形など、まつたく東都洛陽附近におこなはれたもの、また河北山地でおこなはれたものと同じである。

觀音像の多いのは唐代一般のふうであるが、その觀音像のわきに供奉者の立像や、跪像をはめたのは、この山のわづかな創意である。また象にのつた普賢菩薩の像の多いのも、偶然ながらまたこの山の特色であらう。

北京人の朝餉

宇　澄　朗

朝餉はなるべく簡便に且つ輕いものをとるといふのが、南北を問はず中國人の普遍的な習はして、いはゆる「吃點心」が即ち朝餉である。午どきや日暮どきには「吃了飯嗎」といふ挨拶を交はすけれども、朝はさうはいはない「吃了點心嗎」といふ。

點心といふ言葉は、今日では一般的にお菓子の類を總稱するやうに轉化してしまつたが、能改齋漫錄に「世俗例以早晨小食爲點心」とあるやうに、朝はやくから新たに食事を拵へる面倒を避け、有り合はせのもので簡單にすませる食事がそも〳〵本來の點心で、前晩の殘飯に熱い番茶をかけてサラ〳〵とかき込むお茶漬や、洋風の朝のオートミルなどは本當の點心といふべきものであらう。

従つて北京人の朝餉は、日本のやうにお米の御飯にオミオツケと型にはまつた一定式のものではなく、取材極めて自由であると共に、一面頗る經濟的で、そしてまた衞生的でもある。

尤もこの朝の點心は、正午に晝餉夕方に夜食をしたゝめる所謂三食主義者がこれをとり、午前十時頃と午後五時頃の二回に食をとる所謂二食主義者は殆んど朝餉の吃點心をやらない。北京の商家の多くは後者に屬する。

◇

熱い御飯にオミオツケといつたほど決つたものではないが、北京人の老も若きも、男も女も、上下おしなべて最も大衆向に用ひられる朝餉の點心は、燒餅と麻花と豆腐漿の三者であらう。

メリケン粉を練つて、小さいのは直徑一寸、大きいのは大福ぐらゐの厚さ二三分の圓形にのばし、その上面に白胡麻をつけ、それを爐の中で燒く。それが燒餅で、やゝ齒ごたへの固い胡麻つけのパンと思へばいゝ。風味清淡、日本人の口にも洋風のパンよりは向く。

麻花はまた一名果子、南方では油條或は油殺檜といひ、曹達を加へてメリケン粉を練り、ちやうど割箸ぐらゐの太さと長さにのばし、それを沸ぎつた油——上等は胡麻油、中が落花生油、下が大豆油——の中に入れると、狐色にふんわり輕くふくれて揚がる。南方ではその熱いやつを好くが、北京ではたいてい冷めてコリ〳〵したのを喰べる。

この麻花を南支では油殺檜といふがその名稱の由來が頗る面白い。傳說に據ると、この點心は、明の初年頃浙江省の杭州で初めて拵へたもので、その創始業者がよほど風變り者であつたと見えて、忠臣岳飛を讒殺した奸惡秦檜を、五右衞門の釜うでではないが油で揚げ殺すといふ意味の下に油殺檜といふとてつもない奇名をつけた。それが岳飛のお墓のある杭州の民衆に大受けに受け、軈て幾くもなく全國人の味覺的嗜好を惹き、土地によつてその名稱の相異はあるけれども、どんな田舍に往つてもこの喰べ物のない處はない。

燒餅を劃りその中にこの麻花を入れて喰べるのが普通の喰べ方で、北京人の多くは、春夏秋冬、毎晨からしてそれを朝餉の點心とする。やゝ喰べ慣れると飽きの來ない風味である。

併し、これでは口がモサ〳〵して喉が乾くのと、またいさゝか糖分に缺けてゐるので、これを喰べるときは大抵豆腐漿即ち豆乳を啜る。御飯にオミオツケ、パンにスープといつたあんばいだ。

この豆腐漿は、牛乳のやうに豆乳製造元から毎晨配達もするし、また北京の街の何處にもこれを賣る店がある。

この麻花の代りに、コールドビーフに似て、もつと味のいゝ醬牛肉や醬羊肉、或は豚の醬肘子ソーセージなどを燒餅の中に入れると、これは素晴しく美味で、口のおごつた階級はかうした點心を常用する。

かういつた肉類は、何やら西洋臭くと思はれるであらうが、日本に於けるコールドビーフやソーセージのやうな最近の洋食模倣では決してなく、中國には昔からかういふ肉食品が發達進步してゐるし、そしてちよつと賑やかな街に出ると、それらを賣る醬肘店が何處にもあつて、五錢でも十錢でもお好み次第で賣つて呉れる。

◇

朝餉にお粥——稀飯——を喰べることも一般的な食事といつていゝ。

新たにお米からたいたお粥は、御主人たちのお口に這入り、召使どもは前日の殘飯やおコゲをお粥にたき直して喰べる。さらりとして殊の外うまい。

お米のお粥よりも、北京でもつと大衆的に廣く用ひられてゐるものは、小米粥即ち粟粥で、これに小豆でも入れると、甘黨の悦ぶ美味である。

唐モロコシの粉で拵へたお粥――包米粥――もまた喜ばれ、その香りに一種の野趣が偲ばれて、晩夏新秋新唐モロコシの出始める頃のお粥をスープ皿に盛り、それにミルクとザラメを添へてお客様にでも出さうものなら、黄金色の色合ひといひ、口に含んだ風味といひ、オートミルなどよりどれほど上品でしやれてゐるか知れない。

◇

北京のやゝ賑やかな街の晨には、切糕といふ一種の粟餅を賣る露店がたつ。小豆餡に棗などを中にはさんだ粟餅でそれを買つて來て、お砂糖を少しふりかけて喰べる。婦人子供などの舌鼓をうつ朝の點心で、甘黨の禮讃を博するに足る。

◇

夏の半を過ぎると、新芋のゆでたのや、また秋に這入ると燒芋の呼賣りの聲が朝の食慾をそゝる。手車の上に爐をきづいて、熱いゆで芋や燒芋を賣る。それを朝の點心として喰べる。また變つた味ひで旨い。

また洋菓子でも、或はカステラに似た鷄蛋糕や蜂糕のやうな中國式のお菓子でも、前の日に買つて來て、翌朝の點心として喰べることも多いし、またバナナのやうな果物を朝の點心とすることもあり、その點極めて自由だ。

◇

前の日の殘物を巧みに拵へ直して朝の點心にあてることは、北京ばかりでなく、全國を通じて普通に行はれる簡便にして而かも經濟的な特色である。

一例を申上げると、前晩の殘飯があるとする。すると翌朝その殘飯を他に變つたお美味しいものに拵へ直す。俗にいふ卵飯即ち鷄子兎炒飯などは、その最なるものゝ一つであらう。贅澤な人になると、バター又はヘツト或は胡麻油でも結構、少量の油を鍋にたらし沸ぎつたところへ殘飯を入れて手ばやく攪きまぜ、それに解いた鷄卵を入れて攪きまぜ、更に細かく刻んだハムや藥味の葱を入れてまたもう一度よく攪きまぜ、それをスープ皿に盛りスプーンで喰べる。もしその上に青海苔でもかけたら堪らなくお美味しい。殘飯の整理としては事やゝ贅澤ではあるが實に上乘のもので、私の日本知友の子供たちは「白い御飯より卵飯にしてお母ちやん」とせがみ、たきたての御飯でわざ〳〵この卵飯を拵へてはよく子供たちに喰べさせてゐる。

◇

また老餅が殘るとする。この老餅を細く切り、それを麪代りにして燒ソバのやうに拵へ直す。炒餅といつて本當の炒麪よりも却て旨いくらゐだ。

また前日の饅頭が殘るとする。それを蒸し直して喰べてもいゝが、別にまたこんな方法がある。かたくなつた饅頭を二三分の厚さでカマボコ形に切りバターでもよし、ヘツトでもよし、また胡麻油でも結構、それを油で狐色に焦す。それだけでもトーストなどより遙かにお美味しいし、またそれを皿に盛つて白砂糖をふりかけ、日本の番茶を啜りながら喰べると是れ亦素敵だ。歐洲に長らくゐた私の日本知人のO氏は、北京へ來ると私の茅舍に宿り、朝の點心として毎日必らずこの炸饅頭を所望したものだ。よほど御意に召したものと見える。

また前日のお殘りの餃子――滿洲の日本人は、これをギョウザなんていつてゐるが、誠に以ていやらしい音の間違ひで、チヤオツをギョウズと訛り、間違へたまゝ華語の解らぬ人たちの間に通用されてしまつたものらしい――も胡麻油でいためると、別の旨さに變る。

私のお父さん

繪は石家莊小學校　山田君子（尋三）

北支と蒙疆の鐵道や自動車や水運の仕事を一手に引受けてゐる華北交通會社（本社は北京です）には日本人の社員が三萬人（社員は全部で十萬人）働いてゐます。そのうちの七千人は日本や滿洲に家族を殘してゐます。家族と一緒に居る人達も不自由な生活をがまんして、お國のために兵隊さんと一緒に一生懸命働いてゐるのです。ここに掲げる綴方と繪はその人達の子供達が書いたものであります。

ヂライ

彰德日本小學校
尋二　高橋富美子

ウチノオトウサンハ、タクサンノ支那人ヲツカツテ、レールヤ　テツキヤウヲナホシタリシマス。デスカラ　タイテイ　トホイ所デ　ハタラキニナリマス。ズツト前ノコトデシタ。

トウサンノ　ノツテヰタモーターカーガ、ヂライニカカリマシタ。ソコニノツテヰタ支那人ダケハスグ死ンデシマヒマシタ。トウサント　ヨソノヲヂサンダケハ助カリマシタ。ケレドモヨソノヲヂサンモ大ケガデ入院シマシタガ、ウチノトウサンダケハ　アタマニコブガ出來タダケデシタ。

デモウチノモノハ　ソレヲ知ラズニヰタガ、オトウサンカラサウイフ　オハナシヲキイタトキハ　ミナビツクリシマシタ。

トウサンニ　ツレラレテビヤウインニ行ツテ見ルト、ヨソノヲヂサンハカホヤ手ヤ足ヲホウタイデマイテヰマシタ。目口耳ダケ出シテヰルノヲ見ルト　キノドクデタマリマセンデシタ。

ウチノトウサンハ　カミサマニタスカツタノダト思ヒマス。

支那に來て

膠濟線張店
尋三　横山　公一

僕は內地の新潟縣です。內地に居た時はお友達と別れて　知らない支那なんか行くのは　いやだなあと思つて居りましたが、來て見てお友達が出來たり兵隊さんを見たりして、お父さんの所へ來てよかつたと思ひました。

お父さんは毎日　博山線の汽車に乘つて行かれます。夜中の十二時頃家を出て行かれるので、僕は眠つて居るので知りません。日曜日で　お歸りになる時間のわかる時は、汽車が入つてくると　僕は「お父ちやあん」と大聲で呼びます。そして家に歸つて御飯をいただきます。

あまりなまけたり　あばれたり　勉强をしないと、兵隊さんはどうした、なにしに父ちやんや　母ちやんが北支に來たのか　よく考へなさい、と叱られます。僕も大きくなつたら　お父さんのやうに　機關車に乘りたいなあと思ひます。

お國のために

石家莊日本小學校
尋三　三野千惠子

お父さんは　去年の十月から彰德のきむだん（機務段）に行つて居ます。

お母さんが毎月お父さんのすきな物を持つて　あちらに行きます。實滿さんのおかあさんと　ちよい〳〵一しよに行きます。くつしたや　シーツをせんたくして持つて行きます。

お母さんが歸つて、お父さんは一人で　おみそしるや御飯をたいて居る、とおしへてくれました。そして　おねえさまや私が　よく勉强して居るか、いつも聞くさうです。

この前冬休みの時に　彰德へ遊びに行きましたが、お父さんは戸口の所でさびしさうに　たばこをすつて居ました。私はかはいさうに思ひました。お父さんは自分で御飯をたいてるので、大へん手があれてゐました。體が大切だといつて、毎朝早くから起きでたいさうをして居ます。お父さんは寒くても朝早くから　元氣できむ段に行つて居ます。

この間お母さんが、べつ〳〵に暮してゐるのはふべんだが、ねえさんがすぐ女學校に行くから、お父さんも　しばらく辛ばうしていただく　と云つて居りました。

夕方になると　お父さんがゐなくてさびしいなあ、と思ふけれど、お父さんはお國のために働いてゐるのだからがまんします。日本にゐる兵隊さんの子供のことを思へば、なんでもないです。中國人と仲よくして、家中そろつて　くらせるやうになるのを　たのしみにして、よく勉强をして、お父さんを　あんしんさせます。

さうかう列車

石家莊日本小學校
尋四　都知木康幸

僕のお父さんは　さうかう列車にのつてゐて、時々支那兵とあつて　戰をします。或時は大砲をうつさうです。晩などは　さきが見えないので、ゆつくりと走つて行くさうです。もしかするとぢらいにかかるからです。

お父さんのさうかう列車は　じゆんとくや、しやうとく（地名）やいろんな所に行つて戰つてゐます。

兵隊さんと　てつぱうをうつたり、支那兵をおつかけたりしてゐるさうです。いつか馬が一とう支那兵の武器をかついで　さうかう列車のそばにきたので、「これはいゝおみやげだ」と云つてもつてかへつて來たさうです。僕もさうかう列車に乘つてみました。さうかう列車の中は寢臺がある上に、たたみもあるのには　びつくりしました。かへつてからお父さんに　そのことを云ひますと、お父さんのさうかう列車も寢臺やたたみがあるさうです。

或日僕がさうかう列車に乘つてゐると、お父さんが通つたので、「お父さん」と呼ぶと、「おう康幸」とおつしやつた。僕が「お父さんのさうかう列車はどれ」とききますと、「後の方にゐるよ」とおつしやつたので、後について行くと、「父ちやんは今晩北京に行くよ」とおつしやつた。それからなにかいたゞいて家に歸りました。お父さんのさうかう列車は　僕が乘つたのよりも　ずつときれいでした。

晝飯

彰德日本小學校
尋五　山川　可雅

お父さんは子供とふざけるのが　すきらしいです。朝早くお父さんが起出して來て、僕等が寢てゐる所に來て顔の不精ひげですりつける。一番末の明美ちやんは　かなきり聲を出して「お母さあん　たすけて」などとあばれ出します。

又時々みんなと朝早くから歌をうたひます。お父さんは酒も煙草ものみます。北支に來てからお父さんは內地に居た時より少し氣が荒くなりました。

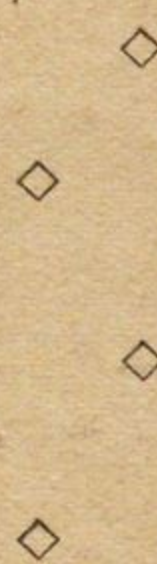
このあひだ風引かなにか病氣が　はやつて　列車段の人達も　病人が出きた。人手が足りなくなつて　とてもいそがしくなつて來たので、お父さんは朝早く行つて夜はおそくかへつて來ます。

お父さんは晝飯は食べません、あまり早く起きて朝飯を食べないでいくことも度々あります。お父さんはきつとおなかが　へつても　がまんしていらつしやるのだと思ふと、僕は遊んではゐられない。僕も晝飯をぬきにしようと思つたが　おなかが　へると食べたくて〳〵　やりきれません。ここががまんのしどころだと　やつとがまんが出來ました。

夕飯はとてもおなかがすいてゐるので　おいしく食べられます。

お父さんは忙しくて困ることがあつても僕達には決して話しません。自分できちん〳〵とかたづけてしまひます。

僕達が列車段の風呂に行くと、早く入つて風を引かないうちにかへりなさいと云ひます。僕達が病氣になるのが困るさうです。僕はお父さんは大好きです。

◇　◇　◇　◇

全支民衆の法悦境 五台山六月祭復活

支那五億民衆渇仰の聖地として古き傳統と靈驗を稱へられる有名な山西省五台山六月祭りは今次事變以來中止のまゝ今日に至つてゐたが、現地軍の努力によつて恢復したので民衆の熱望に應へ五台山聖地復活第一回の六月祭が開催されることに決定した。五台山は約千九百年前、後漢明帝時代開山されたもので、爾來この地を中心にして佛教は猛烈な勢で支那本土から東洋の各地へ伸展して行つたのである。日本からも慈覺大師が敢然と海を渡つて入山し、修業によつて悟道三昧に精進したと言ふ因縁もある。六月大會と云ふのは陰曆六月六日から十五日迄の十日間、五台山菩薩頂に於て嚴修される勝會道場を指すもので、西藏に於ては、モンハン・チョツクと稱せられる嚴肅な大法要で、この十日間無限の法悦に醉つて心の奧底まで信仰の泉で洗ひ流さうと、支那本土は申すに及ばず陝西、甘肅、寧夏、新疆更に遠く滿洲、内外蒙古、西藏からも蝟集する。その信徒の群は十數萬に上ると云はれてゐる。

尚この意義深きお祭りを盛大に擧行するため當局では太原、大同、岱岳鎭、代縣、寧武、忻縣等山西省を中心とする十一箇所に參詣者案内所を開設し、一方佛教團體の參拜者を募集すると共に醫療班を派遣、食糧、民需物資斡旋のため小麥粉二十五萬斤、高粱、粟、麥粉等數十萬斤その他雜貨、麻などを用意し、また參拜者の爲五台、沙河鎭、代縣の道路を補修するはずである。尚會期中には特別遊藝班、映畫、演劇、ラヂオ、紙芝居、講演等を行ふ筈で、その盛況振りと實質的な民衆宣撫の効果は各方面から期待されてゐる。

華北交通愛護村 更に水路に及ぶ

鐵道線路を挾んで兩側各々十粁、自動車路線を挾んで兩側各々五粁の地帶に組織されてゐる華北交通の愛護村は今回更に水路にまで伸張擴充されることになつた。卽ち華北交通の手によつて運航されてゐる北支の各河川は現在小淸河（黃台橋—岔河）二四一二一粁、南運河（天津—德縣）二四六粁、子牙河（天津—沙河橋）一六〇粁、薊運河（蘆台—豐台）五七粁を首め全主要河川に及び、その總延長は三千餘キロであるが、その水路兩側各々五粁の地域に愛護村を設定し、同時に各河川に就航してゐる社船警備のため天津と濟南に水上警務段を新設、各航行には水上警備隊員が警乘し、沿岸愛護村の協力とともに水運の安全と圓滑を期することになり、旣に一部間では實施されてゐる。これによつて愈々華北交通の警備、保安、愛路組織は鐵道、自動車、水運について完備し、交通機關と沿線民衆の連繫は益々强化されるわけである。

日華結婚獎勵 新民會の肝煎り

日華の若い人達がしつかりと結びついて樂しき家庭を作り、大東亞建設のため理想ハウスを拵へませうと新民會民福科が出雲の神の役を買つて出ることになつた。先づ身を以て範を示せよ、との古訓に從ひ、さすが支那道德宣傳の本家だけあつて、この日華結婚獎勵は先づ新民會中央總會の職員から始める計畫をたてゝゐる。現在新民會日華職員約三千名の內若い獨身者が一千五百名もゐるが、この一千五百名の若い職員達に「お嫁さんを貰ふなら華人の娘さんを貰つて下さい。適當な人を紹介しますから」と民福科が音頭を取つて媒酌役をつとめる豫定である。それには先づ華人女性に家庭主婦として勤めるべきあらゆる課程の練習を積ませ、尙日本人の家庭の主婦となつても日本婦人に負けない程度のお嫁さん修行をさせねばならぬとあつて、花嫁學校など設ける計畫も樹てられてゐる。

それと同時に日本を深く理解する華人の若い獨身者には日本の娘さんを世話して、優しい大和撫子の支那花嫁を澤山拵へたいといふのである。いざ實行となればいろんな問題もあらうし、贊否の議論もあらうがこの結婚に依る民族融和は日華親善の早道であるとの見解から新民會民福科では意氣込んでゐる。

北京新市街に 乾隆夢の古墳

北京西郊新市街の建設工事場から、乾隆時代の豪華な夢を偲ばせる白堊の古墳が發掘され話題を提供してゐる。場所は新市街長安大路と東翠路との交叉點を南へ約二丁ばかりのところで、道路開鑿中路面にはみだした低い丘を切り開かんとした際、鶴の先に觸れた美しい切り石を不審に思ひ、さらに掘り進むうち、つひに深さ數尺の土中から約四尺幅の煉瓦で圍まれた大理石造りの古墳が發見されたのである。この大理石の門の高さは約一丈半ばかり、閉された同じ大理石の扉は高さ九尺、巾四尺厚さ七寸餘の豪華なみがきのかゝつたもの、またこの扉の鎖

の要は一尺角もある素晴らしいもので乾隆の文字が彫つてある。建設總署工程局ではさらにこれを移葬することになつてゐるが、餘程顯貴の人を埋葬したものらしく、近く考古學の專門家によつて研究されることになつてゐる。

交通戰士に贈る「一椀親善」

昨年秋、第二十六回二科展で美術界の話題にのぼつた優秀作品がこのほどはるばる京都から華北交通會社に屆けられて來たが、これには次のやうな美しい物語が祕められてゐる。

今から約一年前二科會の伊谷賢藏畫伯が從軍畫家として彩管報國を志して戰線に赴く途次來燕、創立したばかりの華北交通本社を訪ねて第一線スケッチ從軍の來意を告げ、便宜供與方を依賴したが、同社では畫伯の抱いてゐる美術奉公の念に共鳴し、その旅行に便宜を計つたのであつた。その後、華北交通と畫伯との間には、何の交渉もなく日を過したのであつたが、昨年秋開かれた二科展には、伊谷畫伯から從軍作として「一椀親善」が出品された。それは一家九人の貧農が皇軍勇士に惠まれた粥を野良ですゝつてゐる縱六尺、横七尺の大作で、九人の老幼の顏には戰火の恐しさと、日本軍の溫情に對する感謝の心がこもごも複雜な表情となつて表はれ、前線の雰圍氣が巧みに描出されてゐるもので、當時美術界にその力作を謳はれたのであつた。二科會ではこの伊谷畫伯の作品を永久保存したいとまで希望してゐたのであるが、畫伯は大陸建設に挺身してゐる交通從事員の辛勞と當時與へてくれた會社の好意を憶つて二科會の希望を絕ち、激勵と感謝の意をふくめてこの一椀親善を華北交通に贈つたのである。かうした緣につながれて同社の感激とともに「一椀親善」は、永く保存されることになつた。

華北の初夏は蛙から――

去る四月二十九日冀東方面から北京に歸つた一旅客の話――撫寧盧龍交界地方、雙旺莊村一帶の道路に多數のいぼ蛙が匍行してゐるのでその出所を調べて見ると、雙旺莊村の西にある直徑一丈餘の小池の中から這ひ出して來たものと解つた。

尙その池から東方に向つて一尺から一尺五寸位の大いぼ蛙が數十萬疋蜿蜒五支里に亙つて移行してゐるのを發見時ならぬ「蛙賊出現」に附近農民は大恐慌を來たしてゐたと――尙この蛙の大名行列は一晝夜に亘つて行はれたと云はれてゐる。

北支各主要驛に公衆電報取扱處設置

愈々北支においても日本、滿洲と同様各鐵道驛で公衆電報を取扱ふことになつた。

通信機關の普及と改善に大童の華北電々では電報受附處の增設と旅行者への便益をはかるため、かねて華北交通當局と折衝中であつたが、華北交通でも旅客サービスの建前からこれに協力、今回兩社の間に鐵道公衆電報取扱事務委託の協定が成立し、各主要驛に公衆電報取扱處の開設を見たものである。開設された公衆電報取扱處は次の各驛である。

△京山線―豐台、天津、天津北站、塘沽、唐山、昌黎、秦皇島

△津浦線―滄縣、淮南、泰安、兗州、臨城

△京包線―西直門、南口

△膠濟線―青島、坊子、濰縣、益都、張店

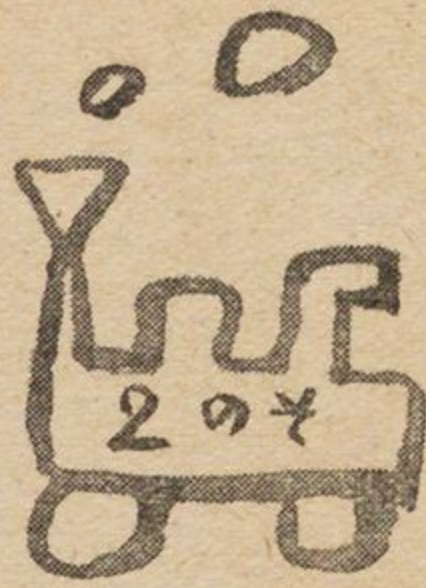
△京漢線―長辛店、保定、石家莊

日本人の手で淸河鎭の鷄飼復活

北京北郊の淸河鎭は古くから鷄飼の名所として廣く世に知られてゐるが、民國以來ひどくさびれて仕舞ひ僅かにその名殘りをとどめてゐるに過ぎなかつたが、今回邦人の手でこの鷄飼ひを復活させようと、嬉しい話が持上つてゐる。

淸河鎭といふ小さな街には滿蒙毛織の北京工場を始め少數の日本人が居住してゐる。この邦人達は事變以來も織物業だけでなく畜產に、農產に、農民と協力して自給自足を圖つて來たのであるが、今まで特別の指導者を持つてゐなかつた淸河鎭の農民達は、この意氣盛んな日本人達の仕事に感激すると共にその栽培した野菜を見てビックリ、何時の間にか日華人肩を並べて畑へ出ると云ふ明朗風景を呈する樣になつた。

これが機緣となり、日華親善の意味で見せた華人達の鷄飼ひが、スッカリ日本人の氣に入つて、淸河鎭を鷄飼の名所にしようではないかと云ふことになつたのである。鮒、はやなどの川魚を捕つて生活してゐる附近農民達は大喜びで已に鷄の繁殖を圖つてゐると云ふ。

淸河鎭は北京からピクニックに好適な場所であり、鷄飼ひが北京名所の一つとしてデビューする日も遠くないであらう。

支那旅行身分證明書

五月二十日から渡支制限規則が施行され次の如き資格を備へた者のみを乘船渡支させることになつた。

一、陸海軍の許可證を得て渡支する慰問者

二、既に大陸に家を有するもの、家事要務のため一時渡支するもの

三、商取引のため一時渡支するもの

四、永住又は現地勤務のため渡支するもの

五、その他やむを得ざるもの（建設工作に必要なる技術員等その適用範圍は挾い）

そしてこの第二項以外の者は總て豫め現地の領事館警察より證明書の送付を受け、內地警察署にこれを提示すれば初めて所轄署より渡支證明書を出すことになつた。今までは居住地の警察署で發行する「支那旅行身分證明書」だけでよかつたのであるが、今後現地領事館警察よりの證明書がいる事になつたから、この點特に注意を要する。詳しくは警察署に問合せること。

旅行中の食事

朝鮮、滿洲、北支各地とも日本內地と同じやうに主要列車には食堂車がつけてあり、大きい驛では汽車辨當や壽司お茶その他くだもの、菓子、名物など賣つてゐる。

旅館

北京、天津、濟南、青島などはもちろん、鐵道沿線の大きな街に純日本風の宿屋が相當あり、疊敷日本料理で女中さんがサービスしてくれる。一泊朝夕二食付四、五圓程度から。

洋式ホテルも北京、天津、濟南、青島などには完備した立派なものがある。外人經營のところでも大ていは日本人のマネジヤーがゐるから不便ではない。室料一泊十圓位から。

支那宿は廉くて、手がるだが言葉が通じないから不便である。生活樣式が違ひ特有の習慣もあるから初めてなら泊らぬ方がよさゝうである。

お金

現金二百圓以上は持てないことになつてゐる。北支では中國聯合準備銀行券蒙疆銀行券のほか絕對に通用しないから要所々々で兩替せねばならない。

各徑路別に「旅行の心得」を述べると朝鮮・北支間は上圖表の通りである。

下關待合室

東京方面から汽車で下關につくとプラットホームをまつすぐつきあたると地下道がある。それをくぐつて右がはの木の橋を上つて行くと左がはに船（下關－釜山間の連絡船）の待合所がある。九州方面からは關門連絡船を下りて地下道まで行かずに木橋を上ればよい。

食事

連絡船では御飯は出ないが食堂、賣店があり汽車辨當やライスカレー、サイダー等を賣つてゐる。

朝鮮廻り

連絡時間及運賃表

Ⅲ等	驛・港	汽車・汽船				
圓		急5	急7	急9	さくら	ふじ
0	東京	9.00	11.00	10.30	1.30	3.00
5.97	大阪	8.00	10.45	8.45	10.07	11.34
9.57	下關	6.00	9.00	6.55	8.00	9.25
		7便			1便	
9.57	下關	10.30			10.30	
13.12	釜山	6.00			6.00	
		のぞみ	大陸	普5	ひかり	興亞
13.12	釜山	7.50	8.30	8.55	7.00	7.40
27.85	安東	1.10	2.05	7.00	11.50	12.45
32.13	奉天	7.05	7.53	1.35	5.09	6.30
		大陸		普403	急401	
32.13	奉天	興亞	8.00	2.00	11.25	6.40
39.69	山海關	ハ北京直通	3.20	11.40	7.25	2.10
43.94	天津		8.25	6.05	1.35	8.00
46.04	北京		10.40	8.50	4.00	10.35

細字ハ午前・太字ハ午後

昭和十五年六月十五日印刷納本
昭和十五年七月一日發行

七月號
（每月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　大橋松雄
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二三三番
電話九段（33）三一四一五番　三三四四番

一册定價　三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所　一新社
電話土佐堀九三九

痒い皮膚病に

ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して強力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。

一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。

一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

適應症

疥癬・頭癬・湿疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頭癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患。

包裝

一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

日染

ムナバール

製造元　日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元　株式會社稲畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

武田新發賣

疲勞の恢復と防止に メタボリン錠

體力の維持と增强

疲勞は諸種の疾病を誘起せしめ之が防止乃至恢復は保健と最も緊密な關係がある。劇務による精神の疲勞、スポーツの如き急激なる運動、過激な勞働は體內に多量の代謝產物（疲勞素）を增大し、ビタミンBの缺乏に因り疲勞素は蓄積して心身の能力を低下せしめ、各種の疾患を誘起せしむ。從つて之が豫防及び回復は必然的に多量のV・B_1を必要とす。

高單位V・B_1劑の出現

メタボリン錠は從來の低單位のV・B_1劑と異り、V・B_1の力價高く然もB複合體を併有す。從つて本劑の投與により疲勞の防止と回復に奏效するのみならず、食慾を振起し、體重を增し體力の維持增進に好影響を與ふ。脚氣の各症型、結核、肋膜炎等の熱性疾患、姙娠時、授乳期等には特にメタボリン錠の樣な高單位V・B_1劑の服用が效果的とさる。

〔適應症〕脚氣の治療及び豫防。胃腸疾患、食慾不振、結核、肺炎、肋膜炎、其他の熱性傳染性疾患、多發神經炎、神經痛、乳幼兒發育障碍、病中病後。

〔藥價〕メタボリン錠（一錠中純結晶V・B1 〇・一二五瓱）
二〇〇錠（二圓五〇）　五〇〇錠（五圓五〇）
强力メタボリン錠（一錠中純結晶V・B1 〇・五瓱）
一〇〇錠（三圓五〇）

知名藥店にあり

製造發賣元 株式會社 武田長兵衛商店
大阪市東區道修町

和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年六月十五日印刷納本　昭和十五年七月一日發行（毎月一回一日發行）第十四號
北支　定價三十錢